

令和4年度 国語科「現代文B」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	園芸・自動車・情処科 2年 A・B・C組
教科書	高等学校 標準現代文B (第一学習社)	副教材等	常用漢字オールクリア (尚文出版)、プリント

1 学習の到達目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 重点目標

幅広い文学作品に触れ、考えを深めると共に、自分の意見を的確に表現する言語能力を育てる。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	言語と生活	「情けは人の… …」 俵万智	筆者のものの見方を的確に理解する。語句の意味・漢字の読み・意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
5	小説を読む (一)	「デューク」 江國香織 中間考査	物語の内容と心情の理解を図る。語句の意味・漢字の読み、意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
6	小説を読む (二)	「ナイン」 井上ひさし	物語の内容と心情の理解を図る。語句の意味・漢字の読み、意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
7		期末考査		
9	小説を読む (三)	「鼻」 芥川龍之介	近代の代表的な小説を読み、基本的な読解方法を理解する。物語の内容の理解を図る。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
10		中間考査		

11	自己を見つめる	「わたしはあなただったかもしれない」 大脇三千代	筆者のものの見方を的確に理解する。語句の意味・漢字の読み・意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
12	言語と生活	「マジ？」 高山 宗東 期末考査	筆者のものの見方を的確に理解する。語句の意味・漢字の読み・意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
1	人間と文化	「コミュニケーションの文化」 平田オリザ	筆者のものの見方を的確に理解する。語句の意味・漢字の読み・意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
2	自己を見つめる	『私』という『自分』 鷺沢萌	筆者のものの見方を的確に理解する。語句の意味・漢字の読み・意味の把握を十分にすることを重点とする。	文章の意味を理解できたか、語句の理解が正確か、発問・ノート・感想等を通じて確認する。
3		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。
書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。
読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、話す・聞く能力、書く能力、読む能力、知識・理解、の5観点から、評価規準に従い総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

毎時間の板書内容のノート・プリントへの書き取りを忘れない、怠らない。ノート・プリント提出及び点検があるので、それに備えておく。常用漢字テストではできるだけ得点を重ねられるよう、事前学習を確実にする。課題の提出をおろそかにしない習慣を身に付ける。以上が十分にできれば、単位修得の可能性は高い。

令和4年度 地歴公民科 「世界史A」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	全科 2年 A～C組
教科書	新版世界史A (実教出版)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史を関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 重点目標

疑問や問いかけを大事にし、学ぶ楽しさ、調べる楽しさに気づかせる。
視覚に訴える教材を多用し、興味を高め飽きさせない工夫をする。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1章 ユーラシアの諸文明と交流	東アジア世界の形成と発展	文明の誕生とその特色について学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
		南アジア世界の形成と発展	自然環境と人類の活動が相互に作用しあっていることを学ぶ。	
5	中間考査	西アジア世界の形成と発展	人間の作り出す権力構造や階級について学ぶ。	
			宗教や哲学の必要性和影響力を学び、現代社会と関連付けて理解を深める。	
6	第2章 一体化する世界と日本	地中海世界の形成	日本の歴史と対比させながら、世界とつながっていることを学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
		キリスト教世界とイスラム教世界	世界が一体化に向かう要因とその過程を学ぶ。	
7		大航海時代	宗教や哲学の必要性和影響力を学び、現代社会と関連付けて理解を深める。	
		ヨーロッパ諸国の展開	日本の歴史と対比させながら、世界とつながっていることを学ぶ。	
9	第3章 ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動	イスラム世界の展開	イスラム世界の特色と文化を学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
		産業革命	時代に応じた政治権力のあり方について学ぶ。	
10		アメリカの独立	民主主義の形成過程を学ぶ。	
		フランス革命とナポレオン	人権の獲得過程について学ぶ。	
		ヨーロッパ列強の展開	作業や調べ学習を通し、地理的条件と関連付けながら理解する。	
		アジア世界の変動		
		中間考査		

11	第4章 現代世界のあゆみ 帝国主義とアフリカ分割	第一次世界大戦 とロシア革命 ヴェルサイユ体制と国際連盟	現代社会との関連を常に意識しながら学習する。 植民地支配の実態と抵抗運動について学ぶ。 帝国主義に至る歴史的経緯を学ぶ。 第一次世界大戦に至る経緯を学ぶ。 大量破壊兵器の怖さを学ぶ。 社会主義革命の歴史的意義を学ぶ。 戦争は始めるより、終わらせること（戦後処理）が難しいことを学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
12		期末考査		
1	第5章 第二次世界大戦後の世界	世界恐慌	現代社会との関連を常に意識しながら学習する。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
2		ヒトラーとファシズム 第二次世界大戦	経済と政治の密接な関連を学ぶ。 独裁政治と民主政治の違いと優劣を学ぶ。	
3		冷戦と国際連合 各国の独立 冷戦後の世界 21世紀の世界 期末考査	第二次世界大戦に至る国際状況、経済状況、各国の政治状況を学ぶ。 戦後の国際対立の構図を学ぶ。 民族問題、宗教問題の複雑さを学ぶ。 現在の諸課題を歴史的背景から考察する。	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
思考・判断・表現	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
技能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

歴史と現在を常に関連付けて考えてほしい。 歴史にはプラス面、マイナス面があり、そのどちらも現代の諸課題の解決に生かすことができることを意識してほしい。 宗教や文化が人類にもたらす影響を意識してほしい。
--

令和4年度 地歴公民科 「日本史A」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年 C組
教科書	新訂版 新日本史A (実教出版)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

近現代史を中心とする日本の歴史を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史を関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 重点目標

疑問や問いかけを大事にし、学ぶ楽しさ、調べる楽しさに気づかせる。
視覚に訴える教材を多用し、興味を高め飽きさせない工夫をする。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	近代以前のあゆみ 第1章 近代国家と社会の形成	世界と東アジア	日本の古代・中世・近世の歴史の流れについて学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
		近代国家の誕生	幕藩体制から明治新政府の全国統一について学ぶ。	
		近代社会の形成	日本の中央集権国家体制や立憲国家への過程について学ぶ。	
5		中間考査	欧米の制度・文化を取り入れ、日本の社会が近代化することについて学ぶ。	
6	第2章 二つの戦争と大日本帝国	日清戦争と日露戦争	朝鮮半島と満州との国際関係から日清・日露戦争になっていくことについて学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
		帝国形成期の社会	日露戦争後の政治や社会体制の変化について学ぶ。	
7	第3章 帝国とデモクラシー	大正デモクラシー	大正デモクラシー思想の拡大や第一次世界大戦の勃発に至る国際関係について学ぶ。	
		ヴェルサイユ体制とロシア革命	第一次世界大戦後の国際秩序であるヴェルサイユ体制とワシントン体制が日本外交に与えた影響について学ぶ。	
		期末考査		
9	第4章 デモクラシーの展開と帝国の変容	都市化と市民文化	大正時代の経済発展からの都市的生活文や大衆文化拡大の様子について学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
		東アジアの情勢と恐慌	昭和初期の日本の経済恐慌の原因や状況を理解し、その後の軍国主義への道になっていくことを学ぶ。	
10	第5章 アジアの戦争と第二次世界大戦	日中15年戦争	中国の国権回復運動から関東軍の満州事変に始まり、軍人・右翼の国家改造運動、国家主義の台頭から軍部の政治介入に至る過程について学ぶ。	
		中間考査		

11	第6章 現代日本の源流	アジア太平洋戦争	日・独・伊によるヴェルサイユ体制・ワシントン体制への挑戦から、日本は日中戦争から太平洋戦争過程とその展開について多面的に学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
12		戦後世界と日本 冷戦と日米安保体制 期末考査	戦後世界秩序が戦勝国によってつくられ、その形が国際連合であるとともに、日本のアメリカによる占領政策について学ぶ。 東西冷戦の成立と対立の様相を理解し、それがどのように東アジアへ波及していったかを学ぶ。	
1	第7章 冷戦のなかの経済成長	高度経済成長下の日本	1950年代後半から始まった高度経済成長が、いかに達成され、日本の経済や産業構造をいかに変革したかを学ぶとともに、日本の国際経済体制占める地位を上昇させたかを学ぶ。	行動観察 資料収集と分析 討議と発表 ワークシート
2		経済大国	「経済大国」の達成、日本の産業構造や社会の変化、国際的評価を多面的に学ぶ。	
3		転換した世界のしくみ 現代日本の課題 期末考査	冷戦終結を米・ソの動向から考え、社会主義陣営崩壊による新たな国際秩序について学ぶ。 現代日本の課題について多面的に学び、考える。	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	近現代史を中心とする日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
思考・判断・表現	現代日本の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
技能	近現代史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
知識・理解	近現代史を中心とする日本の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

歴史と現在を常に関連付けて考えてほしい。 歴史にはプラス面、マイナス面があり、そのどちらも現代の諸課題の解決に生かすことができることを意識してほしい。 宗教や文化が人類にもたらす影響を意識してほしい。
--

令和4年度 数学科「数学Ⅰ」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科・自動車科・情報処理科 2年A, B, C組
教科書	高校数学Ⅰ (実教出版)	副教材等	担当者による自作プリント

1 学習の到達目標

数学的活動を通じて、数学における基本的な概念の理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を身につける。また、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用することができる。

2 重点目標

四則計算を使って、公式が利用できるようにする。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第2章 2次関数 1. 関数とグラフ	①1次関数とそのグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・座標平面上の点, 1次関数のグラフについて復習する。 	行動観察 ワークシート分析
5		②2次関数とそのグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・$y = ax^2$ のグラフの書き方を学ぶ。 ・$y = ax^2 + q$ のグラフの書き方を学ぶ。 ・$y = a(x - p)^2$ のグラフの書き方を学ぶ。 ・$y = a(x - p)^2 + q$ のグラフの書き方を学ぶ。 ・平方完成を学ぶ。 ・$y = ax^2 + bx + c$ のグラフの書き方を学ぶ。 	
6	2. 2次関数の値の変化	①2次関数の最大値・最小値	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを利用して, 2次関数の最大値・最小値の求め方を理解する。 ・x の値の範囲に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値の求め方を理解する。 	行動観察 ワークシート分析
7		②2次関数のグラフと2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフとx 軸との共有点のx 座標の求め方を学ぶ。 ・解の公式を利用する解き方を学ぶ。 	
7		③2次関数のグラフと2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次不等式の解き方を学ぶ。 	
9	第3章 三角比 1. 三角比	①三角形	学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の相似を理解する。 ・三平方の定義を学ぶ。 ・三角比の意味を理解する。 ・三角比の値の求め方を学ぶ。 ・三角比の表から三角比の値の調べ方を学ぶ。 ・三角比の表から, 角度の大きさの調べ方を学ぶ。 ・三角比を用いて, 高さや高度・高低差・水平距離等の求め方を学ぶ。 ・三角比の相互関係の公式を理解する。 ・三角比の相互関係の公式を使い, 三角比の値の求め方を学ぶ。 	行動観察 ワークシート分析
10		②三角比		
10		③三角比の利用		
10		④三角比の相互関係		
		中間考査		

11	2. 三角比の応用	①三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> 座標を利用して、鈍角まで拡張した三角比を理解する。 0°から180°までの三角比の値の求め方を学ぶ。 0°・90°・180°の三角比の値の求め方を学ぶ。 (180°-θ)とθの三角比との関係を理解する。 三角比の相互関係の公式を理解する。 	行動観察
12		②三角形の面積	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の面積の公式を理解する。 三角形や多角形の面積の求め方を学ぶ。 	ワークシート分析
		③正弦定理	<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理を理解する。 	
		期末考査		
1	2. 三角比の応用	④余弦定理	<ul style="list-style-type: none"> 余弦定理を理解する。 	行動観察
	第5章 データの分析			ワークシート分析
	1. データの整理	②データの整理	<ul style="list-style-type: none"> データを度数分布表やヒストグラムを作成する。 相対度数を求め、相対度数分布表を作成する。 	
2	2. データの分析	①代表値	<ul style="list-style-type: none"> 平均値・最頻値・中央値の求め方を学ぶ。 	
		②データの散らばり	<ul style="list-style-type: none"> 四分位数・四分位範囲・四分位偏差の求め方を学ぶ。 箱ひげ図の書き方を学ぶ。 	
3			<ul style="list-style-type: none"> 分散と標準偏差の求め方を学ぶ。 	
		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの解析の考え方に興味をもつとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの解析における数学的な見方や考え方を身に付けている。
技能	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの解析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
知識・理解	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの解析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>授業は集中して聞き、ノートをきちんと取って下さい。</p> <p>数学は反復練習が大切なので問題練習にきちんと取り組んで、できるだけたくさん問題を解いてください。</p> <p>また、ノートやプリント等の提出物はしっかり提出すること。</p> <p>長期休業時の課題なども平常点に加算しますので、必ず提出すること。</p>
--

令和4年度 理科「生物基礎」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科 情報処理科 2年 A,C 組
教科書	改訂新生物基礎(第一学習社)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。
 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。
 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 重点目標

生物基礎で学習する生物現象は、日常生活や社会と関連しているということに気がつく。
 授業を通して、自分自身(ヒト)の体の中での出来事に興味を持つ。
 目に見える世界だけでなく、目には見えないマイクロワールドの世界にも興味を持つ。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等	
4	第1章 生物の特徴	生物の共通性の由来	<ul style="list-style-type: none"> 生物の祖先とその特徴や、原核生物と真核生物の違いについて理解する。 	授業態度 発言内容 課題プリント ノート 提出物 小テスト 考査	
5	第1節 生物にみられる多様性と共通性	細胞構造の共通性と多様性	<ul style="list-style-type: none"> 単細胞生物と多細胞生物について進化や多様性の観点から理解する。 		
6		真核生物の構造	<ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡の性質や基本操作を理解し、細胞の共通性について理解する。また、原核生物の構造を理解する。 		
		中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 真核細胞の構造や動物細胞と植物細胞の違いについて理解する。 		
7	第2節 細胞とエネルギー	代謝と酵素	<ul style="list-style-type: none"> 生物のもつ共通性の1つとして代謝と、酵素の役割について理解する。 		授業態度 発言内容 課題プリント ノート 提出物 小テスト 考査
		エネルギーとATP	<ul style="list-style-type: none"> 代謝に伴うエネルギーの受け渡しがATPによって行われていることを理解する。 		
		光合成	<ul style="list-style-type: none"> 植物が行う光合成についてエネルギーの通貨であるATPの観点から理解する。 		
		呼吸	<ul style="list-style-type: none"> 植物が行う光合成についてエネルギーの通貨であるATPの観点から理解する。 		
		ミトコンドリアと葉緑体の起源	<ul style="list-style-type: none"> 真核生物の呼吸について、エネルギーの通貨であるATPの観点を下に、クエン酸回路や電子伝達系についても理解する。 		
		期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 細胞に含まれているミトコンドリアや葉緑体について、その起源と役割について理解する。 		
9	第2章 遺伝子とその働き	遺伝子・染色体・DNA	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体であるDNAについて理解する。 	授業態度 発言内容 課題プリント ノート 提出物 小テスト 考査	
10	第1節 遺伝子とDNA	DNAの構造	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造やゲノム、遺伝情報について理解する。また、その研究の歴史についても理解する。 		
		DNAの複製と分配	<ul style="list-style-type: none"> 体細胞分裂におけるDNAの複製と分配と、塩基の相補性について理解する。 		
		中間考査			
11	第2節 遺伝子の働き	タンパク質の構造とその働き	<ul style="list-style-type: none"> DNAの遺伝情報とタンパク質の関係や、タンパク質の構造について理解する。 	授業態度 発言内容 課題プリント ノート 提出物 小テスト 考査	
		遺伝子の発現とタンパク質合成	<ul style="list-style-type: none"> DNAの遺伝情報の転写や翻訳によるタンパク質合成について理解する。 		
12		細胞と遺伝子の働き	<ul style="list-style-type: none"> ゲノムに含まれる遺伝子による、細胞の分化について理解する。 		
		期末考査	<ul style="list-style-type: none"> クローンやiPS細胞、ゲノム解析による医療への応用についても理解する。 		

1	第3章 体内環境と恒常性	体液とその働き	・恒常性を持つ生物の体内環境である体液の種類と性質を理解する。	授業態度 発言内容 課題プリント ノート 提出物 小テスト 考査
2	第1節 生物の体内環境	心臓の構造と体液の循環 赤血球と血小板の働き	・血液を循環させる心臓の構造と働きについて理解する。 ・血液成分である赤血球と折衝番についてその働きを理解する。	
3		体液濃度の調節 学年末考査	・腎臓の構造とその働きについて理解する。 ・肝臓とその働きについて理解する	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、 生物の共通性と多様性を意識する など、科学的な見方や考え方を身につけている。
思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
技 能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物、現象を科学的に探究する技能を身につけている。
知 識 ・ 理 解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能および知識・理解の4観点から総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

- ・ **自他の生命時間を奪う行為をしないこと。**
- ・ 授業は生物室で行います。
- ・ 移動が大変ですが、チャイムと共に始められるように、教科書、ノート、プリント、筆記用具を持ってチャイムと共に始められるようにしてください。
- ・ 勝手な座席の移動はしないこと
- ・ 生物室は飲食物の持ち込み禁止です。(コロナ対策)
- 私語**は、他の人の勉強時間を奪います
- 無断**で行う行為は周りの人の注意力を奪い、その分、命を削る行為です。
- ・ **提出物は期限までに出す**こと。
- 提出期限を過ぎただけ命は削られます。

復習を行い、分からないこと、理解できないことはすぐに先生に質問するなどして、わからないままにしておかないでください。

授業は集中して聞いて、必ずノートを取ってください。

ノートやプリント等の提出物をしっかり提出してください。

令和4年度 理科「物理基礎」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	自動車科 2 年 B 組 情報処理科 2 年 C 組
教科書	高等学校 新物理基礎 (第一学習社)	副教材等	なし

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。 ・目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
--

2 重点目標

日常生活や身の回りにあるさまざまな自然現象を物理学的観点から理解しようとする態度・能力を養う。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1章 力と運動 第1節 物体の運動	1 速度 2 加速度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物体の運動と力の関係について概略を知る。 ・物体の運動の様子の表し方を知る。 ・速度・加速度など運動に関する物理量を知る。 ・等速直線運動の取り扱い方を学ぶ。 	授業態度 授業への取り組み 発問に対する対応 課題プリント レポート
5		中間考査		
6		3 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・等加速度直線運動の取り扱い方について学ぶ。 ・落下する物体の運動について学ぶ。 	授業態度 授業への取り組み 発問に対する対応 課題プリント レポート
7	期末考査			
9	第2節 運動の法則	1 力とそのはたらき 2 力のつりあい	<ul style="list-style-type: none"> ・力の性質を学ぶ。 ・力のつりあいについて理解を深める。 	授業態度 授業への取り組み 発問に対する対応 課題プリント レポート
10		3 運動の法則 4 摩擦力	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュートンの運動の三法則を学び、物体の運動がこの法則から説明できることを理解する。 ・摩擦力について詳しく学ぶ。 	
		中間考査		

11	第2章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー	1 仕事	・仕事について学ぶ。	授業態度 授業への取り組み 発問に対する対応 課題プリント レポート
12		2 運動エネルギー	・エネルギーの考え方について学ぶ。 ・運動エネルギーについて学ぶ。	
		3 位置エネルギー	・位置エネルギーについて学ぶ。	
		4 力学的エネルギーの保存 期末考査	・力学的エネルギー保存の法則について学ぶ。	
1	第2節 熱とエネルギー	1 温度と熱運動	・熱や温度の概要を学ぶ。	授業態度 授業への取り組み 発問に対する対応 課題プリント レポート
2		2 熱と熱平衡	・温度・熱運動・熱量・比熱・熱容量について学ぶ。 ・熱量の保存について学ぶ。 ・物質の三態や熱膨張について学ぶ。	
3		3 熱と仕事	・ジュールの実験について学ぶ。 ・熱力学第一法則について学ぶ。	
		4 エネルギーの変換と保存 学年末考査	・エネルギー保存の法則について理解する。	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
技 能	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。
知 識 ・ 理 解	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・実験の技能および知識・理解の4観点から総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加し、有意義なものにしてください。 ・ノートをつくり、ノートをしっかりととること。 ・ノート、課題などの提出物は、きちんと仕上げ、確実に提出すること。 ・復習し、基本事項をしっかりと定着させてください。

令和4年度 保健体育科「体育」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	全学科 2年 A～C組
教科書		副教材等	

1 学習の到達目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 重点目標

- ・各単元で発展的な技術を身につける。
- ・自分の興味関心・特性に合った種目選択ができるようになる。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	体づくり運動	体ほぐしの運動	<p>自己の心や体が仲間の心や体に及ぼす影響や、仲間の心や体が自己の心や体に及ぼす影響に気付き、自己だけでなく仲間の心や体の調整ができるような運動をしたり、仲間と協力して課題に挑戦するなどの積極的に仲間と交流する運動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでストレッチングをしたり、緊張を解いて脱力したりする運動を行うこと。 ・リズムに乗って心が弾むような運動を行うこと。 ・いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳ねたりする運動を行うこと。 ・仲間と協力して課題に挑戦する運動を行うこと。 ・柔軟性を高める運動 ・調整力を高める運動 	<p>行動観察 発言内容</p>
5	武道	柔道	<p>武道と球技から1種目選択</p> <p>相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢と組み方では、相手の体格や姿勢、かける技などに対応して、自然体で組むこと。 ・進退動作では、自分の姿勢の安定を保ちながら体の移動をすること。 ・崩しと体さばきでは、自分の姿勢の安定を保ちながら相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくること。 ・受け身では、相手の投げ技に応じて安定した受け身をとること。 	<p>行動観察 発言内容 スキルテスト</p>
6		球技	ゴール型サッカー	<p>安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、ゴール前の空間を作り出したりして攻防を展開することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。 ・味方が作り出した空間にパスを送ること。 ・ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶこと。 ・シュートを打たれない空間にボールをクリアーすること。
7	体育理論	ベースボール型ソフトボール	<p>状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体全体を使ってバットを振り抜くこと。 ・スピードの変化にタイミングを合わせてボールをとらえること。 ・バントの構えから勢いを弱めたボールをねらった方向に打つこと。 	<p>行動観察 発言内容 スキルテスト</p>
			運動やスポーツの技術と技能	<p>運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになることを学習する。</p>
		運動やスポーツの技能の上達過程	<p>運動やスポーツの技能の上達課程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあることを学習する。</p>	

9	体づくり運動	体力を高める運動	自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて取り組む。 ・体力測定の結果などを参考に、体力の構成要素をバランスよく全面的に高めることをねらいとして、定期的に運動の計画を見直して取り組むこと。 ・体力の構成要素を重点的に高めたり、特に負荷のかかりやすい部位の怪我を予防したりする運動例を取り入れて、競技力の向上や競技で起こりやすい怪我や疾病の予防をねらいとして、定期的に運動の計画を見直して取り組むこと。	行動観察 発言内容
10	球技	ネット型 バドミントン	状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することができる。 ・サーブでは、シャトルに変化をつけて、ねらった場所に打つこと。 ・シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すこと。 ・シャトルに回転をかけて打ちだしたり、回転に合わせて返球したりすること。 ・変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすること。 ・シャトルをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないで打ち返したりすること。	行動観察 発言内容 スキルテスト
11		ゴール型 サッカー	安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、ゴール前の空間を作り出したりして攻防を展開することができる。 ・守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。 ・味方が作り出した空間にパスを送ること。 ・ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶこと。 ・シュートを打たれない空間にボールをクリアーすること。	行動観察 発言内容 スキルテスト
12				
1	陸上競技	競走 長距離走	自ら変化のあるペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりすることができる。 ・自分で設定したペースの変化や仲間のペースの変化に応じて、ストライドとピッチを切り替えて走ること。	行動観察 発言内容 記録計測
2		運動やスポーツの 技能と体力の関係	運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを学習する。	ワークシート分析 発言内容
3		運動やスポーツの 活動時の健康・安全の確保の仕方	運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることを学習する。	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。
思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。
技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
知識・理解	選択した運動の技能の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

5 評価の方法

実技全般に、運動の技能や態度、楽しさや安全な学習態度であったかを考慮し、スキルテスト・参加意欲・参加態度・審判法ルールを理解度等を4観点から総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・体育にとって必要なことは、基礎的な知識、技能のもとに意欲をもってスポーツを実践することです。体力の向上を目指し、日頃の運動の実践に心がけましょう。 ・服装は学校指定の体操服を着用し、こまめに洗濯し衛生面に気をつけてください。 ・授業はチャイムと同時に開始しますので、活動場所への移動は休み時間の内に完了するようにしてください。また、授業見学は授業担当者に申し出て指示を受けてください。 ・貴重品の管理をしっかり行い、授業に関係のないものは持ち込まないようにしてください。 ・体育は実技を行う授業ですので、怪我等の安全には十分留意してください。また、装飾品は絶対に身に付けしないでください。 ・体育科として、持久走（長距離走）への取り組み方を重視しています。決められた回数を走りきるようにしてください。
--

令和4年度 保健体育科「保健」シラバス

単位数	1単位	学科・学年・学級	全学科 2年 A～C組
教科書	最新高等保健体育（大修館書店）	副教材等	最新高等保健体育ノート（大修館書店）

1 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 重点目標

自分の行動が社会に与える影響を理解し、自他共に健康的な生活を送るための方法を考え、実践する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	生涯を通じる健康	思春期と健康	・思春期の心身の発達・成長の特徴を理解し、心身ともに健康に過ごすための課題を見いだす。	行動観察 発言内容 ノート記述
5		性への関心・欲求と性行動の選択	・思春期に起こる身体の変化とその仕組みを知る。	
6		妊娠・出産と健康	・母体の健康維持の重要性と、そのために母子保健サービスがあることを理解する。	
7		避妊法の選択と人工妊娠中絶	・家族計画について理解を深める。	
8		結婚生活と健康	・心身の健康が結婚生活の基盤になること、また結婚生活を支えるのは夫婦間のよいコミュニケーションであることを理解する。	
9		中高年期と健康	・加齢による心身の変化と中高年期の健康な生活について理解する。	
		期末考査	答案返却	
9	生涯を通じる健康	医薬品とその活用	・医薬品の安全性と危険性について、血中濃度と時間の経過の関係から理解する。	行動観察 発言内容 ノート記述
10		医療サービスとその活用	・医療を受けるしくみと医療サービスの内容を理解する。	
11		保健サービスとその活用	・国民の健康の保持増進を図る行政の活動を理解する。	
12		さまざまな保健活動や対策	・健康な暮らしには保健・医療・福祉の連携が必要であることを理解する。	
		期末考査	答案返却	
1	社会生活と健康	大気汚染と健康	・大気汚染の原因について発生源や汚染物質の種類について理解する。 ・私たちの生活の中で欠かすことのできない水の現状について知る。	行動観察 発言内容 ノート記述
2		水質汚濁、土壌汚染と健康	・土壌が私たちの生活の中で果たしている役割を知る。	
3		環境汚染を防ぐ取り組み	・産業活動によってもたらされる産業廃棄物とは何かを知る。 ・環境問題を地球的な視野でとらえなおすことの大切さを理解する。	
		学年末考査	答案返却	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	現代社会と健康, 生涯を通じる健康, 社会生活と健康について関心を持ち, 意欲的に学習に取り組もうとする。
思考・判断	現代社会と健康, 生涯を通じる健康, 社会生活と健康について, 課題の解決を目指して総合的に考え, 判断し, それらを表している。
運動の技能	
知識・理解	現代社会と健康, 生涯を通じる健康, 社会生活と健康について, 課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス, 授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none">・ 1時間, 1時間の授業を大切に集中して授業を受けることが大切です。 授業で先生の「説明を聞く」「板書を書き留める」だけでなく, 積極的に自分自身の生活を振り返り, 健康の保持増進を図るための課題を見つけることが大切です。さらには, 学習した内容をもとに, 自分や集団の課題を解決する方法を見つけ出すことも求められます。・ 教科書と保健体育ノートは毎時間必ず準備してください。・ 授業はチャイムと同時に始まりますので, 休み時間中に授業に必要なものを準備して着席を完了してください。
--

令和4年度 外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	園芸科 2年A組
教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)	副教材等	アクセスアンカー英和辞典 (学習研究社)

1 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 重点目標

聞いたり読んだりした事柄について、周囲と相談するなどして積極的に理解しようとする。

3 学習の計画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	Pre-Lesson 1 My Name Is Kimura Yui.	・be動詞を用いた基本的な表現について理解する。	行動観察 ワークシート分析
	Pre-Lesson 2 I Like Japanese Comic Books.	・一般動詞を用いた基本的な表現について理解する。	
5	Lesson 1 This Is My House 世界の家	・世界の家についての紹介を通してその特徴を学習する。 ・過去形を用いた基本的な表現について理解する。 ・身の回りのことについて英語で紹介する。	小テスト
	中間考査		
6	Lesson 2 My Favorite Hero 錦織 圭	・人物についてその背景や魅力について学習する。 ・現在進行形と過去進行形について理解する。 ・自分の好きな人物について英語で紹介する。	行動観察 ワークシート分析
	文法のまとめ1	・be動詞と一般動詞、否定文と疑問文、動詞の過去形、進行形などの基本的な用法について理解する。	小テスト
7	期末考査		
9	Lesson 3 Cool Culture from Japan 世界に羽ばたく日本文化	・日本のマンガについての対話を通して日本のマンガや文化がどのように世界に広がっているかを学習する。 ・助動詞(can / will)の基本的な用法について理解する。 ・日本文化について英語で説明する。	行動観察 ワークシート分析
	10	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	・世界の絶景について書かれたメールを通してその魅力について学習する。 ・不定詞の基本的な用法について理解する。 ・行ってみたい場所について英語で発表する。
中間考査			
11	Lesson 5 Finding My Future それぞれの夢	・高校生の夢や目標について知り自分の将来について考える。 ・動名詞の基本的な用法について理解する。 ・将来の夢について英語で述べる。	行動観察 ワークシート分析
	Reading 1 Short Stories in English	・ショートストーリーを読み、場面や心情を読み取って英語におけるユーモアを理解する。 ・登場人物の気持ちを考えながら音読する。	小テスト

12	期末考査		
----	------	--	--

1	文法のまとめ2	・助動詞, 不定詞, 動名詞, There is [are]~構文, 接続詞 when などの基本的な用法について理解する。	行動観察
2	Lesson 6 A Funny Pictures from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	・江戸時代の浮世絵師, 歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ・受け身の基本的な用法について理解する。	ワークシート分析
3			小テスト
	期末考査		

4 評価の観点

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち, 積極的に言語活動を行い, コミュニケーションを図ろうとする。
外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして, 自分の考えなどを適切に伝えている。
外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして, 情報や考えなどを的確に理解している。
言語や文化についての 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに, 言語の背景にある文化などを理解している。

5 評価の方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度, 外国語表現の能力, 外国語理解の能力, 言語や文化についての知識・理解の4観点から, 評価規準に従い総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<p>◎授業について</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語の授業は, 体育や芸術の授業と似ています。教師が黒板に書き, それを皆さんがノートに書き写すだけではなく, 皆さん自身が積極的に参加して初めて成立する授業と言えます。少しだけ行動する勇気を持って参加してください。 NO 欠席, NO 遅刻, NO 未提出, NO おしゃべり, FULL 活動, FULL MARKS。これが BEST です。 <p>◎評価について</p> <ol style="list-style-type: none"> 年5回の定期考査 授業内で行う音読テスト, 書き取りテスト, 聞き取りテスト, インタビューテストなど 課題や提出物(ノート・プリント)の提出状況とその内容 授業への取組み, 出席状況など <p>上記1~4を総合的に判断して評価します。評価の割合は, 1については60~70%, 2~4についてはトータルで30~40%を標準とします。ただし, 2~4の個々の割合は科目の特性や授業の実施状況に応じて変化するものとします。</p>
--

令和4年度 外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	自動車科 2年B組 情報処理科 2年C組
教科書	All Aboard! English Communication I (東京書籍)	副教材等	アクセスアンカー英和辞典 (学習研究社)

1 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 重点目標

聞いたり読んだりした事柄について、周囲と相談するなどして積極的に理解しようとする。

3 学習の計画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	Pre-Lesson 1 My Name Is Kimura Yui.	・be動詞を用いた基本的な表現について理解する。	行動観察 ワークシート分析
	Pre-Lesson 2 I Like Japanese Comic Books.	・一般動詞を用いた基本的な表現について理解する。	
5	Lesson 1 This Is My House 世界の家	・世界の家についての紹介を通してその特徴を学習する。 ・過去形を用いた基本的な表現について理解する。 ・身の回りのことについて英語で紹介する。	小テスト
	中間考査		
6	Lesson 2 My Favorite Hero 錦織 圭	・人物についてその背景や魅力について学習する。 ・現在進行形と過去進行形について理解する。 ・自分の好きな人物について英語で紹介する。	行動観察 ワークシート分析
	文法のまとめ1	・be動詞と一般動詞、否定文と疑問文、動詞の過去形、進行形などの基本的な用法について理解する。	小テスト
7	期末考査		
9	Lesson 3 Cool Culture from Japan 世界に羽ばたく日本文化	・日本のマンガについての対話を通して日本のマンガや文化がどのように世界に広がっているかを学習する。 ・助動詞(can / will)の基本的な用法について理解する。 ・日本文化について英語で説明する。	行動観察 ワークシート分析
	10	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	・世界の絶景について書かれたメールを通してその魅力について学習する。 ・不定詞の基本的な用法について理解する。 ・行ってみたい場所について英語で発表する。
中間考査			
11	Lesson 5 Finding My Future それぞれの夢	・高校生の夢や目標について知り自分の将来について考える。 ・動名詞の基本的な用法について理解する。 ・将来の夢について英語で述べる。	行動観察 ワークシート分析
	12	Reading 1 Short Stories in English	・ショートストーリーを読み、場面や心情を読み取って英語におけるユーモアを理解する。 ・登場人物の気持ちを考えながら音読する。

	期末考査		
--	------	--	--

1	文法のまとめ2	・助動詞, 不定詞, 動名詞, There is [are]~構文, 接続詞 when などの基本的な用法について理解する。	行動観察
2	Lesson 6 A Funny Pictures from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	・江戸時代の浮世絵師, 歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ・受け身の基本的な用法について理解する。	ワークシート分析
3			小テスト
	期末考査		

4 評価の観点

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち, 積極的に言語活動を行い, コミュニケーションを図ろうとする。
外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして, 自分の考えなどを適切に伝えている。
外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして, 情報や考えなどを的確に理解している。
言語や文化についての 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに, 言語の背景にある文化などを理解している。

5 評価の方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度, 外国語表現の能力, 外国語理解の能力, 言語や文化についての知識・理解の4観点から, 評価規準に従い総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<p>◎授業について</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語の授業は, 体育や芸術の授業と似ています。教師が黒板に書き, それを皆さんがノートに書き写すだけではなく, 皆さん自身が積極的に参加して初めて成立する授業と言えます。少しだけ行動する勇気を持って参加してください。 NO 欠席, NO 遅刻, NO 未提出, NO おしゃべり, FULL 活動, FULL MARKS。これが BEST です。 <p>◎評価について</p> <ol style="list-style-type: none"> 年5回の定期考査 授業内で行う音読テスト, 書き取りテスト, 聞き取りテスト, インタビューテストなど 課題や提出物(ノート・プリント)の提出状況とその内容 授業への取組み, 出席状況など <p>上記1~4を総合的に判断して評価します。評価の割合は, 1については60~70%, 2~4についてはトータルで30~40%を標準とします。ただし, 2~4の個々の割合は科目の特性や授業の実施状況に応じて変化するものとします。</p>
--

令和4年度 外国語科「英語表現Ⅰ」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年 C組 選択
教科書	Revised BIG DIPPER English Expression I (数研出版)	副教材等	アクセスアンカー英和辞典 (学習研究社)

1 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2 重点目標

身近な事柄について、情報や考えなどを積極的に理解したり適切に伝えたりしようとする。

3 学習の計画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	Part I	<ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」「～する」をはっきりと表現する。 ・英文の基本構造(主語+動詞+...)やitの用法について理解する。 ・適切な動詞を用いて表現する。 ・there is 構文について理解する。 ・名詞の数などに気をつけて表現する。 ・名詞(可算・不可算)や冠詞について理解する。 ・肯定文, 否定文, 疑問文について理解する。 	活動観察 ワークシート インタビュー 発表 小テスト
	Lesson 1 はじめに①		
	Lesson 2 はじめに②		
5	Lesson 3 はじめに③	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞の数などに気をつけて表現する。 ・名詞(可算・不可算)や冠詞について理解する。 ・肯定文, 否定文, 疑問文について理解する。 	活動観察 ワークシート インタビュー 発表 小テスト
	Lesson 4 My Friends		
	中間考査		
6	Lesson 5 My Family	<ul style="list-style-type: none"> ・現在形と現在進行形について理解する。 ・過去形と過去進行形について理解する。 	活動観察 ワークシート インタビュー 発表 小テスト
	Lesson 6 Pastime	<ul style="list-style-type: none"> ・未来表現について理解する。 ① be doing / be going to do ② will [単純未来・意志未来] 	
	Lesson 7 My Town	<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形や現在完了進行形について理解する。 ① 現在完了形[完了・結果, 経験] ② 現在完了[継続]・現在完了進行形 	
	Lesson 8 Our Teachers	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞について理解する(1)。 ① can [可能・許可] ② may / must [推量] 	
	期末考査		
9	Lesson 9 Visiting a Museum	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞について理解する(2)。 ① should / must [提案・義務, 必要] ② Will you ~? [依頼] / Shall I ~? [提案] 	活動観察 ワークシート インタビュー 発表 小テスト
	Lesson 10 Famous People	<ul style="list-style-type: none"> ・文型について理解する。 ① <SVC> / <SVO> ② <SVOO> / <SVOC> 	
	Lesson 11 Reading	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身について理解する。 ① be 動詞+過去分詞 ② be known to / be satisfied with, etc. 	
	Lesson 12 Studying Abroad	<ul style="list-style-type: none"> ・不定詞について理解する(1)。 ① 名詞的用法 ② how to do / 形容詞的用法 	
	中間考査		

11	Lesson 13 Advice	・不定詞について理解する(2)。 ① 副詞的用法 ② ask ~ to do/see ~ do[原形不定詞], etc.	活動観察 ワークシート インタビュー 発表 小テスト
	Lesson 14 Hobbies	・動名詞について理解する。 ① 名詞的用法/意味上の主語 ② to-不定詞と動名詞	
	Lesson 15 My Vacation	・分詞について理解する。 ① 形容詞的用法 ② go doing / see O doing, etc.	
	Lesson 16 In a Zoo	・比較表現について理解する(1)。 ① as ~ as ... / not as ~ as ... ② ~er than ... / more ~than ...	
12	期末考査		
1	Lesson 17 Our Team	・比較表現について理解する(2)。 ① the ~est/the most ~ ② twice as ~ as ... / as ~ as possible	活動観察 ワークシート インタビュー 発表 小テスト
	Lesson 18 Neighbors	・関係詞について理解する(1)。 ① who, which[主格] ② whom, which[目的格]	
2	Lesson 19 Speeches	・関係詞について理解する(2)。 ① what/what we call ② where, when[関係副詞]	
3	Lesson 20 My Wish	・仮定法について理解する。 ① If I were ~ , I would.... ② I wish I spoke...	
	期末考査		

4 評価の観点

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
外国語表現の能力	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。
外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
言語や文化についての 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

5 評価の方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解の4観点から、評価規準に従い総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<p>◎授業について</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語の授業は、体育や芸術の授業と似ています。教師が黒板に書き、それを皆さんがノートに書き写すだけではなく、皆さん自身が積極的に参加して初めて成立する授業と言えます。少しだけ行動する勇気を持って参加してください。 NO 欠席, NO 遅刻, NO 未提出, NO おしゃべり, FULL 活動, FULL MARKS. これが BEST です。 <p>◎評価について</p> <ol style="list-style-type: none"> 年5回の定期考査 授業内で行う音読テスト, 書き取りテスト, 聞き取りテスト, インタビューテストなど 課題や提出物(ノート・プリント)の提出状況とその内容 授業への取組み, 出席状況など <p>上記1~4を総合的に判断して評価します。評価の割合は、1については60~70%, 2~4についてはトータルで30~40%を標準とします。ただし、2~4の個々の割合は科目の特性や授業の実施状況に応じて変化するものとします。</p>
--

令和4年度 家庭科「家庭総合」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科・情報処理科・2年 AC組
教科書	新家庭総合（実教出版）	副教材等	自作プリント 等

1 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、子供や高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。

2 重点目標

日常生活を見直し問題意識を持ち、将来を見通した改善方法を考え、実践する習慣を身に付ける。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	2編 生活を作る 2章 衣生活を作る	3 衣服の素材を見てみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服素材の種類として織物と編み物があることを知り、それぞれの特徴について理解する。 ・繊維の種類と特徴について学び、いろんな衣類に適した繊維について考える。 ・衣生活を快適に合理的に送るためには、どのようにしたら良いかを考える。 ・繊維製品の表示を理解する。 ・日本の着物に使われている伝統的な文様を知る。 ・日本の伝統的な手工芸である刺し子について理解する。 ・刺し子を利用した小物を制作する。 ・手縫いの基礎である、玉結び、玉止めができるか確認する。 ・刺し子の主になる並み縫いを習得する。 ・刺し子のデザインを考え、制作する。 	行動観察
		4 衣生活の管理		ワークシート分析
5	1章 食生活を作る	1 人と食物とのかかわり 2 私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の歴史や食文化について考え、食事の意義について理解する。 ・世界の食文化について学ぶ。 ・自然環境と食文化の特徴について理解する。 ・日本の食文化について考え、その特徴を学ぶ。 ・日本の各地域で発達した郷土料理について知る。 ・調理の基礎について学習し、理解を深める。 ・調理実習を通して、各自の食生活をよりよくしようとする態度を身につける。 ・衛生的な調理には、どんなことが必要か理解し、実践する。 ・班員と協力し、安全な調理実習を行う。 ・簡単な手作りデザートの作り方を習得する。 	発表
				実習①
6				ワークシート分析
7				ワークシート分析
7		実習①		行動観察 ワークシート分析
7		期末考査		
9		3 栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の大切さを知るとともに、現代の食生活の問題点に気づく。 ・栄養素の種類と働きや、それぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識について理解する。 ・現在の食生活の問題点などに触れ、衛生的で安全な食生活を営もうとする態度を身に付ける。 ・炭水化物の特徴について知り、炭水化物を多く含む穀類・いも・さとうなどの食品について学ぶ。 ・脂質の特徴について知り、脂質を多く含む油脂製品・魚介類などの食品について学ぶ。 	ワークシート分析
				実習②
10				行動観察 ワークシート分析
				発表

11			<ul style="list-style-type: none"> たんぱく質や必須アミノ酸について学ぶ。 たんぱく質を多く含む肉類、卵、豆類の特徴について学ぶ。 	ワークシート分析
12		<p>期末考査 ホームプロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミネラルのはたらきと欠乏症について学ぶ。 ミネラルを多く含む乳・乳製品、海藻について学ぶ。 日本人に不足しがちなカルシウムを多く取り入れるにはどうしたらよいか考える。 ビタミンのはたらきと欠乏症について学ぶ。 ビタミンを多く含む野菜・くだもの・きのこについて学ぶ。 緑黄色野菜と淡色野菜の違いについて理解する。 	ワークシート分析
1				
2		5 食事の計画と調理 実習③	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準、食品群別摂取量などを用いて、バランスのとれた家族の食事計画（献立作成）ができるようにする。 日本人に不足しがちな栄養素を摂取できる料理を習得する。 洋風献立の配膳ができるようにする。 子どもと一緒に作ることができるお菓子を作る。 	ワークシート分析
3	1編 人とかかわって生きる 2章 子どもとかかわる	1 子どもを知る 2 発達のすばらしさ 3 子どもの生活 4 親になることを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 保育を学ぶ意義について学習し、子供の世界と出会うことによって自己理解を深める。 子供の誕生、子供の心身の発達と特徴、子供の生活や遊びについて理解する。 子どもの言葉の発達には絵本を通して、親子のコミュニケーションが有効であることを理解し、読み聞かせの体験をする。 青年期の健康管理の重要性を学ぶ。 子育てのための国や地域の社会的支援について学ぶ。 	行動観察 ワークシート分析
		期末考査		行動観察 ワークシート分析

4 評価の観点

関心・意欲・態度	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。
技能	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。
知識・理解	人の一生と家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能及び知識・理解の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>家庭科では、人間らしい生活をするために、何をどのように食べるのか、何を着て、どう住まうのか、どのような家族や地域をつくっていくのか、そしてそれらに社会がどう関係し、地球規模での環境問題や生活課題がどうつながっているのかなどを学び、自分の生活を自分でデザインする力を付けます。</p> <p>豊かで主体的な生活を送るために、まずは現在の自分の日常生活に関心をもつことから始めてください。授業では講義や実習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。いずれも積極的に取り組み実践力を身に付けて欲しいと思います。</p>

令和4年度 家庭科「家庭基礎」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	新家庭基礎 (実教出版)	副教材等	自作プリント 等

1 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。

2 重点目標

日常生活を見直し問題意識を持ち、将来を見通した改善方法を考え、実践する習慣を身に付ける。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4 5 6	「家庭基礎」を学ぶ 1編 人とかかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族	1 自分をみつめる	・「家庭基礎」の学習内容・方法について知る。	行動観察
		2 自立した生き方、共に生きる人生	・自分自身について客観的に知り、生涯を見通しての一生について考え、それぞれのライフステージごとの特徴・課題を理解する。	ワークシート分析
		3 共に生きる家族	・さまざまな結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現代の家族が抱える課題等を理解する。	ワークシート分析
		4 家族に関する法律	・家族法の理念と背景について理解する。 ・家族に関する法律について学習する。 ・民法改正への動きについて学習し、これからの社会・家庭のあり方について考える。	ワークシート分析
		5 私たちの生活を支える労働と生活時間	・労働について学び、これからの働き方について考える。 ・生活時間の分類について学び、生涯を通じた生活時間のより良い配分について考える。	発表
6 7	2編 生活をつくる 2章 衣生活をつくる	衣服の機能	・衣服素材の種類、特徴、性能について調べ、機能や役割について理解する。	発表
		実習①基礎縫い	・衣服制作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身に付ける。 ・針に糸を通し、玉結び、玉止めができるか確認する。 ・ボタン付けやまつり縫いなど日常着の修繕に使えるように習得する。	行動観察 行動観察 作品
7 9 10	1章 食生活を作る	実習②エプロン	・ボタンの表裏を確認し、丈夫に付ける。 ・裾の長さを確認し、三つ折りをして、まつり縫いを行う。 ・ポケット口を三つ折りし、まつり縫いを行う。 ・ポケットを適切な位置に半返し縫いで縫い付ける。 ・刺繍に適した針や糸、縫い方を知る。 ・自分の好きなデザインで、適切な場所に適切な縫い方で刺繍を行う。 ・調理の基礎について学習し、理解を深める。 ・調理実習を通して基礎的な技術を身につけ、食事マナーを知り、楽しく食事ができるようにする。 ・炭水化物の特徴について知り、炭水化物を多く含む穀類・いも・さとうなどの食品について学ぶ。 ・脂質の特徴について知り、脂質を多く含む油脂製品・魚介類などの食品について学ぶ。	行動観察 作品 ワークシート分析 行動観察 ワークシート分析 発表
3 栄養と食品のかかわり		調理実習①		

11			<ul style="list-style-type: none"> たんぱく質や必須アミノ酸について学ぶ。 たんぱく質を多く含む肉類、卵、豆類の特徴について学ぶ。 	ワークシート分析
			<ul style="list-style-type: none"> ミネラルのはたらきと欠乏症について学ぶ。 ミネラルを多く含む乳・乳製品、海藻について学ぶ。 日本人に不足しがちなカルシウムを、多く取り入れるにはどうしたらよいか考える。 	ワークシート分析
12		<p>期末考査 ホームプロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ビタミンのはたらきと欠乏症について学ぶ。 ビタミンを多く含む野菜・くだもの・きのこについて学ぶ。 緑黄色野菜と淡色野菜の違いについて理解する。 実生活から課題を発見し、解決へ向けて計画し、実践し結果を分析する。 	<p>ワークシート分析</p> <p>ホームプロジェクト発表</p>
1		5 食事の計画と調理 調理実習③	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準、食品群別摂取量などを用いて、バランスのとれた家族の食事計画（献立作成）ができるようにする。 日本人に不足しがちな栄養素を摂取できる料理を習得する。 洋風献立の配膳ができるようにする。 子どもと一緒に作ることができるお菓子を作る。 	<p>ワークシート分析</p> <p>行動観察 ワークシート分析</p>
2	1編 人とかかわって生きる 2章 子どもとかわる	1子どもを知る 2 発達のすばらしさ 3子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> 保育を学ぶ意義について学習し、子供の世界と出会うことによって自己理解を深める。 子供の誕生、子供の心身の発達と特徴、子供の生活や遊びについて理解する。 子どもの言葉の発達には、絵本を通して親子のコミュニケーションが有効であることを理解し、読み聞かせの体験をする。 	<p>行動観察</p> <p>ワークシート分析</p> <p>行動観察</p>
3		4 親になることを考えよう 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の健康管理の重要性を学ぶ。 子育てのための国や地域の社会的支援について学ぶ。 	ワークシート分析

4 評価の観点

関心・意欲・態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。
技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能及び知識・理解の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>家庭科では、人間らしい生活をするために、何をどのように食べるのか、何を着て、どう住まうのか、どのような家族や地域をつくっていくのか、そしてそれらに社会がどう関係し、地球規模での環境問題や生活課題がどうつながっているのかなどを学び、自分の生活を自分でデザインする力を付けます。</p> <p>豊かで主体的な生活を送るために、まずは現在の自分の日常生活に関心をもつことから始めてください。授業では講義や実習、個人作業など様々な形態の学習活動を行います。いずれも積極的に取り組み実践力を身に付けて欲しいと思います。</p>

令和4年度 園芸科「課題研究」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科・2年A組
教科書	農業と環境（実教出版）	副教材等	日本農業技術検定テキスト

1 学習の到達目標

農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 重点目標

プロジェクト学習について理解し、課題解決の方法を身に付ける。
日本農業技術検定3級合格を目指す。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	オリエンテーション 課題設定 計画作成		プロジェクト学習と課題研究について理解する。 テーマの設定 日本農業技術検定3級の資格取得を課題として設定する。 計画の作成 2年次第2回目実施の検定受験を目指して、1・2学期の学習計画を立てる。	プロジェクト学習と課題研究の意義を理解している。 農業の資格について理解し、興味・関心を持って取り組んでいる。 内容に合わせて準備ができる。 計画に沿って実施できる。
5	実施	第1章 栽培の基礎	(1) 栽培環境について学ぶ。 (2) 栽培植物の種類と作物品種の選択について学ぶ。 (3) 作付け体系について学ぶ。	実施のために必要な基礎・基本の知識を身につけている。 適切に記録等ができる。 学習プリントの取組と提出がきちんとできる。
6			(4) 耕地の改良について学ぶ。 (5) 栽培作業について学ぶ。 (6) 農業用具について学ぶ。 (7) 施肥について学ぶ。 (8) その他 中間考査	
7	反省・評価 改善・発展		1学期の整理と今後の実施に向けた計画の追加・修正をおこなう。 期末考査	
9	実施	第1章 栽培の基礎	1学期の学習について復習する。 過去の問題を中心に練習問題に取り組む。	内容に合わせて準備ができる。 計画に沿って実施できる。
10				実施のために必要な基礎・基本の知識を身につけている。
11			グループ又は個人に指定された問題について、教科書・テキスト等で解答を調べ、みんなの前で解答の解説を発表する。	学習プリントの取組と提出がきちんとできる。 調べ学習ができる。 適切に発表できる。
12	反省・評価 改善・発展			基本的な事項について理解している。 反省・評価等ができる。

1	実施	第1章 栽培の基礎	検定問題の解答合わせ・解説。 グループ又は個人に指定された問題について、教科書・テキスト等で解答を調べ、みんなの前で解答の解説を発表する。	内容に合わせて準備ができる。 計画に沿って実施できる。 実施のために必要な基礎・基本の知識を身につけている。 適切に記録等ができる。 学習プリントの取組と提出がきちんとできる。 調べ学習ができる。 適切に発表できる。 定期考査 基本的な事項について理解している。 課題設定・計画作成等ができる。
2				
3	反省・評価 改善・発展		1年間の整理と3学年における課題研究のオリエンテーション及び課題設定の準備をおこなう。 (1) 3学年で取り組む課題研究の研究テーマを設定する。 (2) 課題研究の計画をプレゼンテーションソフトで作成し、役割を決めて発表する。	

3 評価の観点

関心・意欲・態度	農業に関する諸課題について興味・関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	農業に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を持つとともに、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。
技能	農業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、農業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知識・理解	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業の意義や役割を理解している。

4 評価の方法

定期考査（農業鑑定を含む）、出欠状況、提出物、取組状況等、四観点（関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解）から総合的に評価します

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席をしない。 ・授業の準備（授業に臨む気持ち、時間を守る、教科書、ノート、不要な物は持ってこない等）を確実にする。 ・次に何をすべきか、常に考える習慣をつける。 ・コミュニケーション能力を育成する意識を持つ。 <p>以上について意識して授業に臨んでください。</p>

「総合実習」(果樹) シラバス

単位数	3 単位 (内1単位は時間割外に実施)	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	果樹 (実教出版)	副教材等	総合実習ノート

1 学習の到達目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を身に付ける。

2 重点目標

- ・一年間の果樹の栽培管理を理解する。
- ・果樹 (ナシ・カキ・ウメ・キウイフルーツ・ブドウ等) の生育管理と剪定を理解する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	果樹の栽培技術	(1) ナシの摘蕾	ナシの受粉・開花特性を理解する。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認 ・ネット設置の確実性と作業に対する積極的な姿勢である。(行動観察)
5		(2) ネット張り	ナシネット設置の意味を理解し、病害虫・気象災害防除の大切さを理解する。	
6		(3) ナシの摘果	ナシの着果特性と摘果の目的を学習し、摘果法を理解する。	
7	果樹の栽培技術	(4) ウメの収穫と調整	ウメの収穫法と調整法を学び、果実の価値や需要等を学習する。	・摘果の目的を理解し、幼果への観察力、摘果する果実の判断力がついた。(行動観察) 果実収穫に取り組む姿勢と技能を評価し、販売実習におけるコミュニケーション力を評価。(行動観察) ・袋掛けの正確な作業、実習への積極的な姿勢である。(行動観察)
7		(5) 袋掛け	袋掛けの意味を学習し、果実に対する市場での評価を理解する。	
9	果樹の栽培技術	(6) ナシ・クリの収穫と調整	ナシの収穫法と調整法を学び、果実の価値や需要等を学習する。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認 ・実習をとおして、果実収穫に取り組む姿勢と技能を評価し、販売実習におけるコミュニケーション力を評価する。(行動観察)
10				

11		(7) ナシの病害虫対策	落葉片付け (埋設) 及び粗皮削り	<ul style="list-style-type: none"> ・実習をとおしてナシの病害虫防除方法を理解し、実践できる。(行動観察) ・スコップ・熊手等の用具とブロー等の農業機械を正確そして安全に扱うことができる。(行動観察)
12		(7) 剪定	ウメ・カキの剪定方法を学習する。	
1	果樹の栽培技術		ナシ・キウイフルーツ・ブドウの剪定方法を学習する。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な果樹の剪定技術の習熟度を評価する。(行動分析) ・用具の知識と正しい使用法を評価する。(行動分析) ・基本的な果樹の剪定技術の習熟度を評価する。(行動分析) ・用具の知識と正しい使用法を評価する。(行動分析)
2				
3				

4 評価の観点

関心・意欲・態度	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、農業の各分野に関心を持ち、意欲的に取り組もうとするとともに、勤労観や職業観を育成する態度を身に付けている。
思考・判断・表現	農業の各分野の体系化、総合化された知識と技術を習得し、経営や管理の改善に必要な企画力、管理能力、問題解決能力やコミュニケーション能力などを身に付け、自らの考えを的確に表現している。
技能	生産や経営管理における知識や技術の役割を理解し、農業生産や経営管理の各場面に応用し、活用することができる技能を身に付けている。
知識・理解	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、各分野の体系化、総合化された知識と技術を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5 評価の方法

出席、ノート提出及び、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<ul style="list-style-type: none"> ・出席を常にしてください。 ・実習中心の科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 ・毎時の実習内容、感想、反省を時間内に整理し、記入してください。 ・次年度の実習に向け、機械、用具の名称や使用目的を覚えてください。 ・実習ノート提出を定期的にもってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 ・安全に配慮して、実習してください。

単位数	3 単位 (内1単位は時間割外に実施)	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	作物 (実教出版)	副教材等	総合実習ノート

1 学習の到達目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。

2 重点目標

- ・時間厳守、適切な服装や態度で実習にのぞむ。
- ・実習内容を記録できるようになる。
- ・畑作物の栽培方法について学習し理解する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	春作物 (果菜類)	春作物について	<ul style="list-style-type: none"> ・本校栽培の春作物について学習する。 ・圃場について理解する。 	実習服を正しく着用できているか確認する。 早生栽培の目的が理解できたか。 農具を適切に使用できたか確認する。 果菜類の管理が適切にできたか確認する。 豆類の栽培方法が理解できたか。 除草作業が適切におえたか。
	露地作物栽培	早生栽培について	<ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培について知る。 ・早生栽培について学習する。 	
	マルチ栽培	普通栽培について	<ul style="list-style-type: none"> ・普通栽培について学習する。 ・早生栽培との違いを理解する。 ・マルチの種類を学習する。 	
	根菜類の栽培	根菜類について	<ul style="list-style-type: none"> ・根菜類について知る。 ・果菜類との違いを理解する。 ・栽培の準備物を知る。 	
5	豆類の栽培	豆類について	<ul style="list-style-type: none"> ・豆類の特性について学習をする。 ・圃場管理の内容を理解する。 	豆類の栽培方法が理解できたか。 除草作業が適切におえたか。
	圃場管理	作付品目について	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草について学習する。 	
6	露地圃場管理	根菜類の栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・根菜類の定植方法を理解する。 ・根菜類の定植をする。 ・畝間の除草をする。 ・株間、畝間を理解する。 ・害虫防除について学習する。 	安全に実習できているか確認する。 定植が適切か確認する。 除草作業が適切か確認する。 小麦について理解できたか確認する。 収穫の作業について理解できたか。 病害虫防除について理解できたか確認する。 植物残渣を処理できたか確認する。
	露地圃場管理			
	果菜類の管理	コムギ収穫準備	<ul style="list-style-type: none"> ・コムギの準備について学習する。 ・コムギの収穫について理解する。 	
	露地圃場管理	コムギ収穫、調整 根菜類の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫後の管理内容を理解する。 ・根菜類の畝間の除草作業の意味について理解する。 ・果菜類の収穫適期を理解する。 	
7		果菜類の収穫	<ul style="list-style-type: none"> ・果菜類の収穫をする。 ・果菜類の調整をする。 	収穫後の植物残渣処理の目的を理解する。
		果菜類の調整 果菜類の片付け		
9	秋作物 (根菜類)	秋作物とは 作付準備 秋作物播種	<ul style="list-style-type: none"> ・秋作物について理解する。 ・秋作物について作付準備をする。 ・播種する作物について学習する。 ・秋作物を播種する。 	実習服を正しく着用できているか確認する。 作付に気を付けるポイントが分かったか確認する。 適切な播種方法で評価する。 ソバについて学習状況を評価する。 根菜類について管理ができたか確認する。 収穫時期を判断できたか評価する。 調整作業ができたか評価する
	大栄農場管理	ソバ播種について	<ul style="list-style-type: none"> ・大栄農場の場所を知る。 ・ソバについて学習する。 ・ソバの刈り取り方法を理解する。 	
	圃場管理	根菜類の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・除草作業を行う。 ・間引きなど管理実習を行う。 	
10	収穫調整	根菜類収穫	<ul style="list-style-type: none"> ・根菜類の病害虫防除を適切に行う。 ・根菜類の収穫適期を学ぶ。 ・試し掘りをして成長度合いを理解する。 ・根菜類の収穫を実際に行う。 ・根菜類の調整作業について理解する。 ・実際に調整作業を行う。 	
		根菜類調整		

11	収穫調整	秋作物の収穫 根菜類の調整	<ul style="list-style-type: none"> 秋作物収穫適期を学習する。 秋作物の収穫方法を理解する。 実際に収穫を行う。 収穫後の調整作業を理解し、行う。 収穫可能なものを暫時収穫していく。 	秋作物の収穫適期を判断できるか確認する。 収穫作業ができていないか評価する。 調整作業ができていないか評価する。 コムギの種子について理解できたか確認する。 ソバの収穫について理解できたか確認する。
	コムギ管理	コムギ播種準備について コムギの播種	<ul style="list-style-type: none"> 収穫可能なものを暫時収穫していく。 コムギ播種について必要な農機具の取扱いについて学習する。 コムギについて学習する。 コムギ播種について学習する。 	
12	圃場管理	秋作物管理	<ul style="list-style-type: none"> 実際にコムギを播種する。 秋作物に使用した被覆資材などを片付ける。 収穫後の植物残渣の適切な処理方法を学習する。 	
	ソバ管理	ソバ収穫調整について	<ul style="list-style-type: none"> 圃場から植物残渣を取り除く。 ソバの調整方法を理解する。 	
1	コムギ管理	麦踏み作業について	<ul style="list-style-type: none"> コムギ栽培に必要な知識を理解する。 麦踏みの目的を理解する。 コムギの麦踏みを行う。 	作業服を適切に着られているか確認する。 コムギの管理作業が適切か確認する。 春作に必要な作業が出来るか確認する。 麦踏みの内容について理解できたか作業で確認。 分けつ時期が理解できたか確認。 春作物の準備ができたか確認。 作型について理解できたか確認する。 圃場管理が適切に行えたか評価する。 種子について理解できたか確認する。
	露地圃場管理	春作の準備について	<ul style="list-style-type: none"> 露地圃場の片付け方法を学ぶ。 植物体の撤去をおこなう。 	
2	コムギ管理	麦踏み作業について	<ul style="list-style-type: none"> 麦踏みの目的を理解する。 コムギの麦踏みを行う。 	
	圃場管理	区分けと春作準備について	<ul style="list-style-type: none"> 根菜類植え付けに必要な条件を学習する。 実際に根菜類を植え付ける。 コムギの分けつを理解する。 分けつに必要な条件を学習する。 露地圃場に必要元肥について理解する。 堆肥の散布を行う。 栽培する場所の区分けを行う。 	
3	春作物管理	育苗作業について	<ul style="list-style-type: none"> 早生栽培をする作物の播種をする。 発芽に必要な温度条件や水分条件を学習する。 春作に必要な資材を圃場に準備する。 種子の下準備について学習する。 	
	春作物播種	直まきについて		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、農業の各分野に関心を持ち、意欲的に取り組もうとするとともに、勤労観や職業観を育成する態度を身に付けている
思考・判断・表現	農業の各分野の体系化、総合化された知識と技術を習得し、経営や管理の改善に必要な企画力、管理能力、問題解決能力やコミュニケーション能力などを身に付け、自らの考えを的確に表現している。
技能	生産や経営管理における知識や技術の役割を理解し、農業生産や経営管理の各場面に応用し、活用することができる技能を身に付けている。
知識・理解	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、各分野の体系化、総合化された知識と技術を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5 評価の方法

出席状況、実習手帳提出及び関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から評価規準に従い総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> 出席を常にしてください。 実習中心の科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 毎時の実習内容、感想、反省を時間内に整理し、記入してください。 次年度の実習に向け、機械、用具の名称や使用目的を覚えてください。 実習ノート提出を定期的に行ってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 安全に配慮して、実習してください。

「総合実習」（食品製造）シラバス

単位数	3 単位 (内1単位は時間割外に実施)	学科・学年・学級	園芸科 ・ 2年 A組
教科書	食品製造 (実教出版)	副教材等	教員作成プリント、実習ノート

1 学習の到達目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。

2 重点目標

小麦の加工（パン製造）を中心として、食品製造に必要な基本的な知識・技術を習得する。また、これらの体験学習を通して、ものづくりの基礎的知識、技術を身に付け、社会で必要な関心・意欲・態度を養う。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第5章 果実類の加工	1. ブルーベリーと園圃管理について ①ブルーベリーについて ②圃場づくり ③定植方法について	ブルーベリー園の圃場づくりや定植等の実習を通して、栽培方法や管理方法について理解する。 ブルーベリーの品種や特性等についても実習ノートにまとめ、理解を深める。 茶園管理や機械の整備等の実習を通して、茶園の管理・茶樹の管理方法について理解する。	果実の栽培や管理実習への取り組み姿勢を確認 品種や特性を的確に捉え、観察でき、記録できているか取り組みと実習手帳を確認 栽培や管理方法について、取り組み姿勢や実習手帳を確認 茶の特性の理解、観察を的確に記録できているか実習手帳を確認
5	付録 茶 (教科書 p131～p136、234、235)	2. 茶園管理について ①茶について ②茶樹の管理 ③茶樹浅刈り	座学においても、茶についての実習ノートを整理し、まとめ、理解を深める。	茶園管理に使用する機械や器具を適切に取り扱うことを確認 実習内容をノートに整理し、圃場での栽培や管理方法が理解できているか実習手帳、ノートを確認
6	第6章 農産物の加工 第4章 食品加工と 食品衛生	3. 小麦について ①小麦の特性と加工について ②小麦の栽培・収穫方法について(播種:2学期) 4. 食品衛生について ①食品衛生の重要性について ②食品衛生行政について ③食品衛生に関する法律について	小麦(夢四方・農林61号)圃場での実習を通して、小麦の特性や栽培、収穫方法について理解する。 小麦の加工原理を理解し、小麦を利用した加工食品のつくりかたを習得する。 小麦の特性とその加工について、ノートを整理し、まとめ、理解を深める。 小麦粉の加工実習を通して、食品の安全を守る食品衛生の重要性を理解する。 食品の安全を守るための食品衛生の重要性を理解する。 食品衛生行政のしくみを理解する。 食品衛生に関する法律には、どのようなものがあるかを理解する。	原材料(小麦)の生産実習への取り組み姿勢を確認 小麦の特性を的確に捉え、観察でき、記録できているか取り組みと実習手帳を確認 収穫実習への取り組みと実習内容を的確にまとめているか、取り組み姿勢と実習手帳、ノートを確認 食品衛生の重要性を理解し、実習に正しく取り組み、記録できているか実習手帳を確認 食品衛生と関係法規を理解でき、食品を取り扱う服装や身だしなみを適切に整えているかを確認
7	(教科書 p77～86、46～49)			
9	第5章 果実類の加工	5. 果実類の加工 ①果実の特徴とその加工品 ②ジャム類 ③果実飲料 ④シラップ漬け ⑤乾燥果実	果実の特徴とその加工原理を理解する。 ブルーベリーを利用した加工実習を通して、ブルーベリーの特徴について理解し、ジャム加工のつくりかたを習得する。 学校農産物(加工用梨)を利用した加工実習をとおして、加工用梨の特徴について理解し、ジャム加工のつくりかたを習得する。	食品衛生を理解し、的確に実習に取り組む姿勢を確認 果実の特徴が理解でき、適切にジャム加工に取り組む姿勢と実習手帳を確認 加工用果実の特徴が理解でき、適切にジャム加工に取り組む姿勢と実習手帳を確認 ジャム加工実習を衛生的に取り組む姿勢を確認 安全に製品をつくることができるか、取り組み姿勢と実習記録を確認
10	第6章 農産物の加工 (教科書 p131～150、87～95)	6. 穀類の加工 ①パン	パンの製造実習を通して、原材料やパン加工のつくりかたを習得する。	継続的な実習の活動記録が適切にできているか実習手帳を確認。食品衛生が理解でき、適切に製パン実習に取り組む姿勢と実習記録を確認

11	第6章 農産物の加工	ア. ロールパン	ロールパンと菓子パンの製造実習を通して、日本風菓子パンを理解する。	パン加工について関心が高まり、適切に製パン実習に取り組む姿勢と実習の記録を確認 各種日本風菓子パンの特徴を理解でき、適切に取り組む姿勢と実習記録を確認
		イ. 菓子パン	日本風菓子パン等のつくりかたを習得する。 準備、製造、販売までの一連の流通の過程を学び、実践を行う。	
12	(教科書 p87～99、 113～114)	※小麦の播種	小麦の播種方法を理解し、習得する。	
1	第6章 農産物の加工	②菓子類	ビスケットやスポンジケーキの製造実習を通して、菓子類の特徴を理解する。 洋菓子系の各種菓子のつくりかたを習得する。	菓子類の加工について関心が高まり、適切に各種菓子をつくることのできるかを確認
2				
3				

4 評価の観点

関心・意欲・態度	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、農業の各分野に関心を持ち、意欲的に取り組もうとするとともに、勤労観や職業観を育成する態度を身に付けている
思考・判断・表現	農業の各分野の体系化、総合化された知識と技術を習得し、経営や管理の改善に必要な企画力、管理能力、問題解決能力やコミュニケーション能力などを身に付け、自らの考えを的確に表現している。
技能	生産や経営管理における知識や技術の役割を理解し、農業生産や経営管理の各場面に応用し、活用することができる技能を身に付けている。
知識・理解	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、各分野の体系化、総合化された知識と技術を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5 評価の方法

出席状況、ノート提出及び関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から評価規準に従い総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<ul style="list-style-type: none"> ・出席を常にしてください。 ・実習中心の科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 ・毎時の実習内容、感想、反省を時間内に整理し、記入してください。 ・次年度の実習に向け、機械、用具の名称や使用目的を覚えてください。 ・実習ノート提出を定期的にしてもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 ・安全に配慮して、実習してください。
--

総合実習 「草花」 シラバス

単位数	3 単位 (内1単位は時間割外に実施)	学科・学年・学級	園芸 科 2年 A組
教科書	草花 (実教出版)	副教材等	総合実習ノート

1 学習の到達目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。

2 重点目標

草花は毎日の観察が必要であり、管理作業等も日常的に行い、手間を掛けることを認識する。
草花栽培の管理を習得する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	花壇用草花の育苗	<ul style="list-style-type: none"> ・サルビア ・マリーゴールド ・ニチニチソウ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポット上げ用の土作り 土壌ふるい機の扱い 土の種類と配合 ポリポット土詰め ・発芽後の管理 (かん水、置肥、殺虫剤 ずらし、・3.5号ポットに移植) よい苗、悪い苗の判別 ・各種子のは種と管理 	実習ノート 行動観察 土詰めができる 苗のポット上げができる 実習ノート 行動観察 花を収穫し乾燥ができる
5	ドライフラワー用の草花の栽培 花壇用草花の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・センニチコウ ・ニゲラ ・カイザイク 春苗の利用	駅前花壇の植栽	実習ノート 行動観察 追肥と農薬の散布ができる 作品評価 行動観察 実習ノート 行動観察
6	切り花栽培 販売実習	バラの管理 バラの利用 花壇用草花	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥 ・農薬散布 殺菌剤、殺虫剤 ・コサージ作り ・アレンジの練習 ・花壇苗の出荷 (販売) 	実習ノート 行動観察 追肥と農薬の散布ができる 作品評価 行動観察 実習ノート 行動観察
7	鉢花用草花の栽培 園芸デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ類 草花の栄養繁殖 ドライフラワー作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ類の繁殖 ・発根後の管理 ・花の収穫と乾燥 ・花の染色 ・花の保存 	実習ノート 行動観察
9	花壇用草花の育苗	・パンジー	<ul style="list-style-type: none"> ・は種床作り ・は種 (は種機使用) ・は種後の管理 かん水、通風、 ・よい苗、悪い苗の判別 ・エチオール・ゴニアの鉢上げ 	実習ノート 行動観察 は種トレイの準備ができる 自動は種機が使える 実習ノート
10	鉢物用草花 ドライフラワーの利用	草花の栄養繁殖 ドライフラワーの作品製作	<ul style="list-style-type: none"> ・壁掛け ・竹の利用 ・ボトルの利用 	実習ノート 行動観察 作品評価 行動観察 実習ノート 行動観察
	切り花栽培	バラの管理	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥 ・農薬散布 殺菌剤、殺虫剤 	実習ノート 行動観察

11	花壇用草花の利用 ドライフラワーの利用	校内花壇植栽 ドライフラワーの作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・円形花壇にパンジー、葉ボタンを植える ・プランター植え ・リース作り 	<p>実習ノート 行動観察 花壇植栽とプランター植えができる</p> <p>作品評価 行動観察 販売実習ができる 実習ノート 行動観察</p>
12	販売実習	シクラメン	<ul style="list-style-type: none"> ・シクラメンの出荷前調整の仕方を身につける ・客に対する接し方 	
1	生産施設	草花の生産施設・設備とそ の利	<ul style="list-style-type: none"> ・環境制御温室 天窓、側窓の自動開閉 液肥の循環、 ・暖房設備 温湯、電熱線 ・自動かん水 	<p>実習ノート 行動観察 温室の制御が理解できる</p>
2	切り花生産 花壇用草花の生産	バラの剪定 花壇用草花の生産の準備 花壇用草花のは種 花壇用草花のは種 花壇用草花のは種 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自動かん水 露地植えのバラ、鉢植えのバラの剪定 ・草花用土作り 赤土、腐葉土、堆肥の特徴 マリーゴールドは種 サルビアは種 マリーゴールドは種 	<p>実習ノート 行動観察</p> <p>実習ノート 行動観察</p> <p>実習ノート は種トレイの準備ができる 実習ノート 行動観察 は種ができる 実習ノート 行動観察</p>
3			<ul style="list-style-type: none"> 記録簿の点検、次年度の栽培計画 	

3 評価の観点

関心・意欲・態度	草花栽培の実際的・体験的な学習を通して、生産管理や流通に関心を持ち、意欲的に取り組もうとするとともに、勤労観を身につけている。
思考・判断・表現	草花栽培の知識と技術を習得し、生産管理の維持、改善に必要な問題解決能力やコミュニケーション能力などを身に付け、自らの考えを的確に表現している。
技 能	草花生産における知識や技術の役割を理解し、草花生産の各場面に応用し、活用することができる技能を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	草花栽培の実際的・実験的な学習を通して、草花の体系化、総合化された知識と技術を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」・「思考・判断・表現」・「技能」・「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>出席を重視します。</p> <p>実習中心の科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し参加して下さい。</p> <p>毎時の実習内容、感想、反省を時間内に整理し記入して下さい、</p> <p>実習ノートの提出を定期的に行われます。</p> <p>安全に配慮して行動して下さい。</p>

「総合実習」(野菜) シラバス

単位数	3 単位 (内1 単位は時間割外に実施)	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	野菜 (実教出版)	副教材等	総合実習ノート

1 学習の到達目標

農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を身に付ける。

2 重点目標

- ・適切な服装や態度で実習にのぞみ、実習内容を記録できるようになる。
- ・露地野菜 (トウモロコシ・カボチャ・ダイコン・レタス等) の栽培方法について理解する。
- ・販売実習を通して、高校生としてふさわしい態度で、お客様とのコミュニケーションが取れるようになる。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	トウモロコシ・カボチャの栽培	野菜類の育苗技術	農具の使用方法・管理方法を学ぶ。 育苗上の注意を学ぶ。 苗の管理技術を学ぶ。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認
5		露地栽培における果菜類の栽培	トンネル被覆による効果を学ぶ。 カボチャの定植を行う。 整枝を行う。 誘引を行う。	
6	トウモロコシ・カボチャの栽培	施設・トンネル使用による早出し栽培	トウモロコシの収穫適期の見分け方を学ぶ。 トウモロコシを収穫し、計量・調整を行う。 販売実習を行う。 病害虫防除の方法について学ぶ。 追肥を行う。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認
7			カボチャの収穫を行う。 販売実習を行う。 農業鑑定競技会として実施	
9	ブロッコリー・レタス・ダイコンの栽培	露地栽培における葉菜類の栽培	育苗トレイを使用し、ブロッコリー・レタスのは種を行う。 かん水を行う。 トンネルの開閉、温室窓の開閉による温度調整技術を学ぶ。 定植を行う。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認
10		露地栽培における根菜類の栽培	土壌の適性 pH を測定する。 苦土石灰を作目に応じた pH 調整を行う。 ダイコンのは種を行う。 ホウレンソウのは種を行う。 病害虫防除の方法について学ぶ。	

11	ブロッコリー・レタス・ダイコンの栽培	露地栽培における根菜類の栽培	ブロッコリーを収穫し、計量・調整を行う。 品質保持技術について学ぶ。 レタスを収穫し、計量・調整を行う。 品質保持技術について学ぶ。 ハウレンソウを収穫し、計量・調整を行う。 品質保持技術について学ぶ。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認
12			ダイコンを収穫し、計量・調整を行う。 品質保持技術について学ぶ。 販売実習を行う。 農業鑑定競技会として実施	
1	土壌について	土壌の種類・性質	土壌消毒を行う。 病害虫対策の方法を学ぶ。 雑草対策の方法を学ぶ。 土壌の適性pHを測定する。 苦土石灰を作目に応じたpH調整を行う。土の性状 土質・土の性状 肥料配合を行う。	毎時毎に評価する 出席状況 服装・教具の整備 行動観察 ノート提出状況 ノート記載内容 実習結果確認 意見発表会原稿評価で代替
2	野菜の育苗	野菜類の育苗技術	施肥技術について学ぶ。 マルチングを行う。 セル成形苗を育苗する。 は種を行う。	
3			ポリポットの種類・使用方法について学ぶ。 鉢上げを行う。	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、農業の各分野に関心を持ち、意欲的に取り組もうとするとともに、勤労観や職業観を育成する態度を身に付けている。
思考・判断・表現	農業の各分野の体系化、総合化された知識と技術を習得し、経営や管理の改善に必要な企画力、管理能力、問題解決能力やコミュニケーション能力などを身に付け、自らの考えを的確に表現している。
技 能	生産や経営管理における知識や技術の役割を理解し、農業生産や経営管理の各場面に応用し、活用することができる技能を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	農業の各分野の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して、各分野の体系化、総合化された知識と技術を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5 評価の方法

出席、ノート提出及び「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・出席を常にしてください。 ・実習中心の科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 ・毎時の実習内容、感想、反省を時間内に整理し、記入してください。 ・次年度の実習に向け、機械、用具の名称や使用目的を覚えてください。 ・実習ノート提出を定期的に行ってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 ・安全に配慮して、実習してください。

「農業選択」 (果樹) シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	果樹 (実教出版)	副教材等	日本農業技術検定《3級》テキスト (全国農業高等学校長協会)

1 学習の到達目標

果樹生産と経営に必要な知識と技術を習得し、果樹の特性や果実の生産に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 重点目標

- ・果樹 (ナシ・ウメ・カキ・ブドウ・キウイフルーツ等) の結果習性・剪定等を理解する。
- ・果樹の枝接ぎ木方法を体験し体得する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	果樹の種類と果樹栽培の動向	1 果樹の種類と果実の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培されている果樹の種類とそれらの分類について学ぶ。 ・花と果実の構造上の関係を学ぶ。 ・種類による食用部分の構造を知る。 ・教科書にある果実の構造をスケッチする。 ・果実の利用と食用品値の重要性を理解する。 ・摘らい・摘花・摘果の管理作業を行い、果樹に関する知識を身に付ける 	板書で出題
		①果樹の種類と分類		ノート点検
5		②果実の構造		ノート点検
		③果実の食用品値とその利用 圃場実習		圃場実習にて実技確認
		中間考査		
6		④果実をとりまくフードシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・果実の流通について学ぶ。 ・フードシステムを川の流れにたとえて学ぶ。 ・果実の生産量と消費量の動向を学ぶ。 ・世界の生産動向を学ぶ。 ・日本の生産動向を学ぶ。 ・果実の輸出入の現状を知り、将来の果樹栽培について考える。 	ノート点検 グラフ作成 教科書から読取り 教科書から読取り
		2 果樹栽培の動向		発言内容
7		①果実の生産と消費の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県別の果樹生産量を学ぶ。 ・果樹の栽培地に適した種類や品種を学ぶ。 ・GAPの基礎的な内容について学ぶ。 	ノート点検 ノート点検
		②果実の輸出と輸入		得点 総合評価
		GAPについて		
		農業鑑定	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を見て名称や用途を理解する。 	
9	果樹の生育と栽培環境	1 果樹の生育と生理	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹の一生について、そのあらしを学ぶ。 ・C/N率について学ぶ。 ・根・枝・葉の成長と花芽分化の関係を学ぶ。 ・花芽分化について学ぶ。 ・花芽が分化する要因を学ぶ。 	ノート点検 教科書から読取り 教科書から読取り 発言内容
		①果樹の生育とその一生		
10		②根・枝・葉の成長		ノート点検 ノート点検
		③葉芽や花芽の文化と発達		圃場にて質問 圃場実習評価 圃場実習評価
		④開花と結実	<ul style="list-style-type: none"> ・開花と結実、果実の成長について学ぶ。 ・開花と受粉、受精と結実について学ぶ。 ・結果習性について学ぶ。 ・追熟について学ぶ。 ・ナシの収穫 ・糖度測定 	ノート点検
		⑤果実の成熟 圃場実習 中間考査		

11		2 果樹栽培と環境 ①生育と環境要因 ②生育と栄養 学園祭発表 ③生育と土壌 農業鑑定 圃場実習	<ul style="list-style-type: none"> 果樹の生育と気象・土壌・栄養・水分の関係を学ぶ。 果樹の生産安定と高品質果実生産にかかわる栽培技術と環境要因について学ぶ。 果樹に必要な養分や肥料について学ぶ。 学科展示準備 普段の学習内容の紹介 圃場紹介（果樹園） 収穫物の販売（ナシ，クリ） 果樹の生産に適切な土壌管理を学ぶ。 実物を見て名称や用途を理解する。 収穫後の管理 礼肥，落葉処理 	教科書から読取り 表にまとめる ノート点検 参加状況 参加状況 得点 圃場実習評価
12		期末考査		
1	果樹の栽培管理	1 苗木の育成 ①よい苗の条件	<ul style="list-style-type: none"> 苗木生産（繁殖）の特徴を理解し，その方法を学ぶ。 よい苗の形状を学ぶ。 	ノート点検 教科書から読取り
2		②接ぎ木苗の育成 ③挿し木苗の育成 圃場実習	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な接ぎ木の方法を学ぶ。 挿し木苗の準備（保存）の方法を学ぶ。 せん定の基礎を学ぶ。 樹形，各枝の名称を知る。 せん定の手順を知る。 	教科書から読取り 圃場にて実技評価 圃場実技実習評価
3		2 開園と更新 ①園地の立地条件 ②開園の実際 圃場実習	<ul style="list-style-type: none"> 果樹園の開設に必要な自然的立地条件，経済的立地条件を学ぶ。 苗木の植え付け方を学ぶ。 実際のせん定を学ぶ。 徒長枝，予備枝の区別，のこぎり，せん定ばさみの使い方を学ぶ。 	ノート点検 ノート点検 圃場実習評価
		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	生産技術の仕組みや果樹生産の果たす社会的な意義や役割などについて関心を持ち，意欲的に探究しようとするとともに，労働生産性や資本生産性などの向上を図る能力と態度を身に付けている。
思考・判断・表現	生産と経営の現状や今日的な課題を見だし，果樹にかかわる体験的，継続的な栽培活動を通して，観察，実験，調査，記録などの活動をし，その経過や結果を的確に表現している。
技能	実践的な生産活動と，知識の深化を図る課題解決的な学習活動などを通して，基本的，体系的な技術を習得するとともに，果樹生産などに応用できる体系的な技能を身に付けている。
知識・理解	果樹の生理・生態的な特性や生産に適した環境とそれらと生育の相互関係などの基本的な概念や各種の果樹生産，経営管理や情報管理及びフードシステムを理解し，知識を身に付けている。

5 評価の方法

考査，ノート提出及び，関心・意欲・態度，思考・判断・表現，観察・実験の技能及び知識・理解の4観点から評価基準に従い，総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス，授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

- ・出席を常にしてください。
- ・実習を伴う科目です。実習に必要な実習服，教具を準備し，適切な服装で参加してください。
- ・次年度の実習に向け，機械，用具の名称や使用目的を覚えてください。
- ・ノート提出を定期的に行ってもらいます。各時間内にまとめ，常に整理されている状態にしてください。
- ・安全に配慮して，実習してください。

「農業選択」(作物) シラバス

単位数	3 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	作物 (実教出版)	副教材等	日本農業技術検定《3級》テキスト・問題集 (全国農業高等学校校長協会)

1 学習の到達目標

作物の生産と経営に必要な知識と技術を習得し、作物の特性や生産に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 重点目標

コムギ・サツマイモを中心として、畑作物の基本的な栽培方法や収穫調整方法などの技術を習得する。また、これらの体験学習をとおして、ものづくりの基礎的知識、技術を身につけ、社会で必要な関心・意欲・態度を養う。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4 5	作物生産の役割と動向 作物の特徴と種類	作物とは	<ul style="list-style-type: none"> ・作物と作物生産の役割について知る。 ・身の回りの作物と作物利用と広がる作物生産の役割について知る。 	作物に興味関心を持ったかを確認 作物生産の役割を理解できたかノートで確認 生産と消費の動向の諸課題について考える事ができたかノート提出で確認 的確に定植できたかで確認 植物の特徴を理解できたかで確認
		作物栽培の動向 作物の特徴と改良 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の利用と食品の価値の重要性を理解し、作物の生産量と消費量の動向を理解する。 ・作物栽培の将来について理解し、種苗法などの権利について知る。 ・【実習】作物の定植を行う。 ・作物とその近縁野生種の一般的な性質の違いを理解する。 	
6 7	世界の食糧自給	作物の分類と種類	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物の利用目的に基づく分類方法を理解する。 ・繁殖様式に基づく分類を理解する。 	分類法について理解したか確認 三大作物について理解できたかノート提出で確認 自給率について関心を持てたか確認 的確に収穫できたか収穫物で確認 それぞれの用途を理解している
		生産と消費の動向 穀物貿易の動向 我が国の作物生産の動向 農業鑑定期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の主要作物の年間生産を理解する。 ・貿易の主な流れを知る。 ・生産の動向や食糧自給率について関心を持ち概略を知る。 ・【実習】作物の収穫をする。 ・実物を見て名称や用途を理解する。 	
9 10	作物の成長と体のしくみ 生殖成長の進み方	作物の一生と生活史	<ul style="list-style-type: none"> ・植物体の成長について知る。 ・植物体のライフサイクルについて知る。 ・光の強さ、温度について理解する。 ・成長過程について知る。 	模式図を用いて説明できたか確認 発芽から枯死までの一連の流れを理解している 適切に播種できたか作業で確認 栄養成長との違いを理解できたかノートで確認 花芽分化の条件を理解したか確認 開花結実までの時間的な流れを捉えられたか確認
		栄養成長の進み方 花芽分化と発達 受精と結実 中間考査	<ul style="list-style-type: none"> ・【実験】ソバ播種 ・好適な環境を理解する。 ・栽培環境下の違う条件により花芽分化を発生させることを理解する。 ・開花後から受精について知るとともに結実までの流れを理解する。 	

11	作物の生理的な営み	光合成 タンパク質の合成 養水分の吸収 作物の分野	<ul style="list-style-type: none"> ・果実の成熟を理解する。 ・光の強さを理解する。 ・光波長の選択的利用について学ぶ。 ・好適な温度環境を知る。 ・植物体が感じるストレスについて学ぶ。 	<p>温度格差について理解できたか確認</p> <p>光合成と光の関係を確認</p> <p>光合成生産物についてノート提出で確認</p> <p>根の組織図を書いて確認</p> <p>秋作物収穫調整が適切にできたか確認</p> <p>検定内容・鑑定物の知識理解ができたか確認</p>
12	農業技術検定 農業鑑定	<p>【実習】収穫調整実習</p> <p>・農業技術検定問題を用いて一般的な知識を理解する。</p> <p>・実物を見て名称や用途を理解する。</p>	<p>【実習】収穫調整実習</p> <p>・農業技術検定問題を用いて一般的な知識を理解する。</p> <p>・実物を見て名称や用途を理解する。</p>	<p>【実習】収穫調整実習</p> <p>・農業技術検定問題を用いて一般的な知識を理解する。</p> <p>・実物を見て名称や用途を理解する。</p>
1	生育の善し悪しの判断	健全な生育の条件とすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・形成層の構造を理解する。 ・光合成と養分吸収が影響していることを学習する。 	<p>木部、師部を説明できたか確認</p> <p>各器官の構造を図で確認</p> <p>軟弱徒長型のすがたを認識し図で確認</p> <p>軟弱徒長となる原因を説明できたか(ノート提出)</p> <p>生育障害の発生の有無について判断できる</p> <p>イネや麦類の栽培ポイントを理解できたか確認</p> <p>利用部位について栽培特性を学習できたか確認</p>
2	作物の利用部位と栽培のポイント	不健全な生育の原因とすがた 生育診断の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・軟弱徒長型のすがたを理解する。 ・軟弱徒長の原因を学習する。 ・栄養不足型となる原因を学習する。 ・生育障害の原因を学習する。 ・生育診断の方法を理解する。 	
3		果実・子葉の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・イネや麦類の完全登熟粒と不完全登熟粒の違いを理解する。 ・利用部位について栽培特徴を理解する。 	
		期末考査		
		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	作物の生産と経営に必要な知識と技術に関心を持ち、生産の楽しさ、経営の面白さを体験するとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を身につけている。
思考・判断・表現	作物の体験的、継続的な栽培活動と、観察・実験・調査・記録などの学習活動を通して、作物の生理・生態的な特性や生産に適した環境及びそれらと生育の相互関係などの基本を理解し、的確に判断・表現している。
技能	作物の生産と経営に必要な技能の習熟を図る実践的な生産活動と知識の深化を図る課題解決的な学習活動などを通して、各種の作物生産などに応用できる体系的な知識と技術を身につけている。
知識・理解	作物の生産と経営の学習を通して、作物生産が人々の健康と生命に直結し、豊かな生活を持続的・安定的に提供する社会的役割を担っていることを理解している。

5 評価の方法

出席状況、定期考査及び関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から評価規準に従い総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<ul style="list-style-type: none"> ・出席を常にしてください。 ・実習をともなう科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 ・次年度の実習に向け、機械、用具の名称や使用目的を覚えてください。 ・ノート提出を定期的に行ってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 ・安全に配慮して、実習してください。

「農業選択」（食品製造）シラバス

単位数	3 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	食品製造（実教出版）	副教材等	日本農業技術検定《3級》テキスト （全国農業高等学校長協会）教員作成プリント

1 学習の到達目標

食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 重点目標

- ・食品衛生の知識を理解し、食品の加工・製造に取り組む態度と姿勢を身につける。
- ・安心・安全な加工品の製造や品質の向上を図る能力と態度を身につける。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	食品製造の意義と動向	①食品製造の意義 ②食品産業の現状と動向	食品の役割とは何か知る。 食品が備えるべき特性を理解する。 食品製造の目的を学ぶ。 ヒトの食生活の遷移を学び、消費者のニーズを理解する。 食品産業の分類について学ぶ。 我が国の食文化から日本の食品産業の特色を理解する。 食品産業の課題を理解する。	授業への取り組み状況、姿勢・態度の確認。 提出物（ノート・プリント）の確認。 定期考査・小テストを実施し、習熟度の確認。
5	食品製造の基礎	①食品の分類 ②身近な食品の科学 中間考査	食品の分類について知る。 植物性食品と動物性食品の種類と特徴を理解する。 加工食品の種類と特徴を理解する。 食品に含まれる栄養素の種類と働きを学ぶ。 身近な食品から食品製造の基礎知識を理解する。	
6	穀物の加工	①穀物の種類と特徴 ②小麦の構造と成分 ③小麦の加工 ④小麦粉の性状 ⑤小麦粉のおもな加工品 ⑥日本の小麦栽培 ⑦パンの種類 ⑧原材料 ⑨パンの製造法 期末考査	穀物の種類とその特徴を理解する。 小麦の構造と成分を理解する。 小麦の胚乳の硬さ・タンパク質量の違いによって硬質小麦・中間質小麦・軟質小麦に分類されることを知る。 小麦の構造と特徴を理解し、製粉の流れを学ぶ。 外皮も利用できることを知る。 グルテン抽出実験を通じてグルテン形成の原理と特性を理解する。 グルテン量（タンパク質量）から小麦粉が分類され、小麦粉によって用途が異なることを知る。 小麦の主な生産国を知る。 小麦の栽培特性を学ぶ。 日本の小麦栽培について学ぶ。 パンの起源と種類について学ぶ。 パンの原材料と役割を理解する。 実習を通して、パンの製造工程と原理を理解する。	授業への取り組み状況、姿勢・態度の確認。 提出物（ノート・プリント）の確認。 定期考査・小テストを実施し、習熟度の確認。
7				
9	果実類の加工	①果実とは ②果実の成分 ③果実の収穫後の生理特性と加工 ④果実のおもな加工品 ⑤ジャム製造の原理 ⑥ジャムの製造法 中間考査	果実の特徴を知る。 果実の成分と役割を理解する。 果実の収穫後の生理特性を学び加工の重要性を理解する。 果実の主な加工品を知る。 果実の成分を学び、ジャムの加工の原理を理解する。 実習を通じてジャムの製造工程と原理を理解する。 実習を通じてジャム製造時の注意点を理解する。 ブルーベリーの果実とナシの果実の特性を理解し、実習を通じて、ジャムの製造に違いがあることを理解する。	授業への取り組み状況、姿勢・態度の確認。 提出物（ノート・プリント）の確認。 定期考査・小テストを実施し、習熟度の確認。
10				

11	農業技術検定		農業技術検定問題・テキストを用いて一般的な知識を理解する。	授業への取り組み状況、姿勢・態度の確認。 提出物（ノート・プリント）の確認。 定期考査・小テストを実施し、習熟度の確認。
12		期末考査		
1	6. 食品と食品衛生	①食品衛生とは ②食品衛生と行政 ③食品衛生と法律	食品製造の目的と意義を振り返り、食品衛生の目的と重要性を理解する。 食品の安全を脅かす原因について学ぶ。 食品に対する消費者が不安に感じる事項を知る。 飲食に起因する健康障害を理解する。 実習を通じて衛生管理のポイントと作業場に適した服装について理解を深める。 食品衛生法とその概要について学ぶ。	授業への取り組み状況、姿勢・態度の確認。 提出物（ノート・プリント）の確認。 定期考査・小テストを実施し、習熟度の確認。
2				
3		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	食品（穀類、野菜、果実及び畜産物の加工品並びに発酵食品）について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、品質と生産性の向上並びに衛生管理の徹底を図る能力と態度を身に付けている。
思考・判断・表現	食品製造の現状や今日的な課題を見だし、食品製造にかかわる体験的、継続的な実習を通して、観察、実験、調査、記録などの活動をし、その経過や結果を的確に表現している。
技能	実践的な加工と貯蔵に関する実習と、知識の深化を図る課題解決的な学習活動を通して、基本的な食品の加工と貯蔵に関する基本的、体系的な技術を習得するとともに、各種食品の製造に応用できる体系的な技能を身に付けている。
知識・理解	食品産業が安全な食料を安定的に供給し、人々に豊かな食生活を提供する社会的役割についての基本的な概念や食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解し、知識を身に付けている。

5 評価の方法

考査、ノート提出及び、実習態度、4観点（関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解）、出席点を総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ol style="list-style-type: none"> 安全面は重要です。怪我防止の観点からも、実習服等の着用をきちんとしましょう（授業規律）。 機器類をたくさん使います。丁寧に扱い、加工室は常に清潔に保ちましょう。 出席状況を重視します（出席重視）。 自らよく考え、的確に判断しながら行動しましょう（的確な行動）。 ノートの提出を確実にしましょう（提出物はきちんと記入する）。

農業選択 「草花」 シラバス

単位数	3 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	草花 (実教出版)	副教材等	日本農業技術検定問題集

1 学習の到達目標

草花の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。

2 重点目標

世界及び国内の草花生産、流通、需用について理解する。
草花の基本的な生理・生態を理解する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1章 草花生産と消費の 動向	1 草花の種類 2 草花の生産形態 3 生産の動向 4 消費の動向 5 流通の国際化	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸的に分類された名称を学ぶ ・切り花、鉢花、苗物などの形態について学ぶ ・切り花、鉢花、球根などの動向について学ぶ ・儀式や贈答など草花の利用の状況について学ぶ ・世界的に見た花の流通について学ぶ ・日本の花の輸出入について学ぶ 	ノート 草花の生産と動向 を理解する 行動観察
	花壇用草花の栽培 ドライフラワー用の草花	サルビア マリーゴールド ゼンチョウ・ラガス コガラ・カゲイ カスウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライフラワーの作り方について学ぶ ・染色の方法と仕方について学ぶ 	花壇材料の草花の 栽培管理を理解する 行動観察
5	第2章 生活と草花の利用	1 草花の利用 2 園芸デザイン と装飾的特性	<ul style="list-style-type: none"> ・切り花、鉢花などの利用について学ぶ ・装飾としての利用を学ぶ 	花の装飾と利用を 理解する
	6	中間考査	3 園芸デザイン の実際 アレンジメント 作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーアレンジメントの基本を学ぶ {作品制作} ・アレンジメントの基本形を学ぶ ラウンド、エクレイブ、リゾントルなど
ハーブの利用		草花の装飾 ハーブ栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・プランターに花壇苗を使った寄せ植えを作る ・ドライフラワーを使ったラップシールドを作る ・数種類のハーブを栽培し生育記録を取る 	ハーブ類の繁殖が できる 行動観察
7		農業鑑定 農業技術検定3 級学習 期末考査	実物を見せることによりその名称や用途を覚える 農業技術検定基本問題集練習	行動観察
9	花壇苗草花	パンジー、ハボタン	パンジー、ハボタンの栽培管理について学ぶ	秋の花壇材料につ いて理解する ノート
	第3章 草花の特徴と栽培 技術	1 草花の一生 2 根の成長と養 水分の吸収 3 花芽分化と発 達 4 品種改良 5 繁殖方法 6 生育と土・水・ 肥料 7 栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽、花芽分化、受精など成長の過程を学ぶ ・根の発達と吸収について学ぶ ・日長と花芽分化の関係を学ぶ ・品種改良の目的と方法について学ぶ ・繁殖の種類について学ぶ ・土、肥料の種類と性質、かん水の方法について学ぶ ・誘因、摘心、整枝等は種後の管理について学ぶ ・学校、駅前花壇の植栽について図面を書いて学習する 	植物の成長の過程 を理解する 繁殖の方法を理解 する 土と肥料の関係を 理解する 図面の評価 行動観察
10	花壇用草花の栽培	花壇植栽 農業技術検定3 級学習 中間考査	農業技術検定基本問題集練習	

11	園芸デザイン	8 施設の機能・構造 9 環境調節設備	<ul style="list-style-type: none"> 施設の形、種類、被服資材について学ぶ 保温、換気、空調、かん水などの自動化について学ぶ 	温室の機能を理解する 行動観察 ノート 色素の種類と特徴を理解する ノート、行動観察 主な病気と害虫を理解する 作品制作 作品評価 行動観察
		10 花の色素	{実験} 色素の確認 花びらを乳鉢で磨り潰して薬品により判定する	
		11 病虫害防除と除草	<ul style="list-style-type: none"> 主な病虫害の種類を学ぶ 主な病虫害の生態を学ぶ 農薬の種類と使用について学ぶ バラを使ったコサージュを作る 収穫調整したドライフラワーを使ってクリスマス用のリースを作る 	
12	園芸デザイン	アレンジメント	<ul style="list-style-type: none"> バラを使ったコサージュを作る 収穫調整したドライフラワーを使ってクリスマス用のリースを作る 	温室の機能を理解する 行動観察 ノート 色素の種類と特徴を理解する ノート、行動観察 主な病気と害虫を理解する 作品制作 作品評価 行動観察
	農業技術検定3級学習	農業技術検定基本問題集練習		
		期末考査		
1	第6章 花壇用草花生産	1 花壇用草花の特性	<ul style="list-style-type: none"> 栽培期間、需要、産地、流通などについて学ぶ 	花壇の形態を理解する ノート 行動観察 GAPについて理解する ノート 行動観察 ハーブの種類と利用について理解する ノート、行動観察 コニファーの利用を理解する 地被類の種類を理解する 行動観察、ノート
2 生産の動向 GAPについて		<ul style="list-style-type: none"> 生産資材や生産方法の変化、開花の調節などについて学ぶ GAPの意義と現状について学ぶ。 		
3 今後の課題		<ul style="list-style-type: none"> 消費者のニーズの変化を理解する 		
2	第6章 花壇用草花生産	4 花壇用草花の種類 ハーブ	<ul style="list-style-type: none"> 1学期から生育を調査した内容をまとめる ハーブの利用について学ぶ 	花壇の形態を理解する ノート 行動観察 GAPについて理解する ノート 行動観察 ハーブの種類と利用について理解する ノート、行動観察 コニファーの利用を理解する 地被類の種類を理解する 行動観察、ノート
		コニファー	<ul style="list-style-type: none"> コニファーの種類と管理、利用について学ぶ 	
3		グラントカブツ	<ul style="list-style-type: none"> グラントカブツの種類と管理、利用について学ぶ 	
		学年末考査		

3 評価の観点

関心・意欲・態度	草花栽培の実際的・体験的な学習を通して、生産管理や流通に関心を持ち、意欲的に取り組もうとするとともに、勤労観を身に付けている。
思考・判断・表現	草花栽培の知識と技術を習得し、生産管理の維持、改善に必要な問題解決能力やコミュニケーション能力などを身に付け、自らの考えを的確に表現している。
技能	草花生産における知識や技術の役割を理解し、草花生産の各場面に応用し、活用することができる技能を身に付けている。
知識・理解	草花栽培の実際的・実験的な学習を通して、草花の体系化、総合化された知識と技術を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」・「思考・判断・表現」・「技能」・「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

農具や機械類を使う実習を伴います。実習服の着用をきちんとし、安全面に気を配りましょう。 作業は丁寧に、確実にいきましょう。 施設内は常に清潔に保ちましょう。 出席状況を重視します。 ノートの提出を確実にしましょう。

「農業選択」(野菜) シラバス

単位数	3 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	野菜 (実教出版)	副教材等	日本農業技術検定《3級》テキスト (全国農業高等学校長協会)

1 学習の到達目標

野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得し、野菜の特性や生産に適した環境を理解するとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を身に付ける。

2 重点目標

- ・露地野菜 (トウモロコシ・カボチャ・ダイコン・レタス等) の栽培方法について理解する。
- ・促成栽培、抑制栽培による経営的特徴と利点、欠点を理解する。季節と商物の成長の関係を理解する。
- ・播種から定植までの手順ができるようになる。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	スイートコーンの栽培	栽培上の特性	優良苗を選び、定植する。(スイートコーン、カボチャ)	行動観察
		経営上の特性	作型と市況について学ぶ。	ワークシート分析
		作型と品種選び	整枝を行い、その技術を学ぶ。 病害虫の防除技術を学ぶ。	行動観察・結果確認 ワークシート分析
		栽培管理	交配を行い、その方法と原理を学ぶ。	行動観察・結果確認
5	商品価値を高める技術 栽培の評価	除げつ・除房を行い、その方法と効果を学ぶ。	行動観察・結果確認	
		病害虫の防除技術を学ぶ。 雄花除去を行い、その方法と効果を学ぶ。	ワークシート分析 行動観察・結果確認	
6	カボチャの栽培	トウモロコシを収穫・調整・販売する。 土壌診断を行う。	行動観察・結果確認 ワークシート分析	
		復習 中間考査	前時までの学習内容を理解し、学習内容を整理する。	行動観察・結果確認 ワークシート分析
7	カボチャの栽培	カボチャの栽培 栽培上の特性	誘引 生育の経過を観察する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析)
		経営上の特性	西洋カボチャと日本カボチャの違いを学ぶ。	ワークシート分析
		作型と品種選び	交配を行い、その方法と原理を学ぶ。雌雄異花の特性を学ぶ。 追肥	ワークシート分析 ワークシート分析 行動観察・結果確認
		栽培管理	果実の肥大変化について観察する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
10	商品価値を高める技術 栽培の評価	収量と品質調査	行動観察・結果確認	
		後整理・次作準備を行う。	行動観察・結果確認	
9	ブロッコリー・レタス・の栽培	復習 期末考査	前時までの学習内容を理解し、学習内容を整理する。	ワークシート分析
		ブロッコリー・レタス・の栽培 栽培上の特性	定植・土寄せを行い、その意義と方法について学ぶ。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
10	ブロッコリー・レタス・の栽培	経営上の特性	ブロッコリーの栄養素と機械化による省力栽培について学ぶ。	ワークシート分析
		作型と品種選び	花蕾の発育を観察、スケッチする。 花芽分化について観察する。	ワークシート分析
		栽培管理	りん翅目害虫の性質と被害状況を観察し、防除技術を学ぶ。	行動観察・結果確認
		商品価値を高める技術 栽培の評価	予冷方法とその効果について学ぶ。 出荷時の規格、価格変動について理解し、収穫・調整を行う。 販売	ワークシート分析 行動観察・結果確認 行動観察・結果確認

		復習 中間考査	収量と品質調査 前時までの学習内容を理解し、学習内容を整理する。	ワークシート分析
11	ハウレンソウ・ダイコンの栽培	ハウレンソウ・ダイコンの栽培 栽培上の特性	播種・間引きを行い、間引きの意義と方法について学ぶ。 花芽分化による品質の低下について学ぶ。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
12		経営上の特性 作型と品種選び 栽培管理 商品価値を高める技術 栽培の評価 復習 期末考査	市況とそれに応じた作型の選定を行う。生育適性温度と抑制栽培について学ぶ。 品種特性を理解する。 りん翅目害虫の性質と被害状況を観察し、防除方法についてまとめる。 出荷時の規格、価格変動について理解し、果菜類の収穫・調整を行う。 販売実習 収量と品質調査 前時までの学習内容を理解し、学習内容を整理する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析 ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析 ワークシート分析
1	野菜類の育苗	育苗の目的と方法 育苗の意義と良苗の条件	土壌消毒を行い、土壌消毒の意義と方法、原理について学ぶ。 用土の種類について学ぶ。 用土の物理生について学ぶ。	行動観察・結果確認 ワークシート分析 ワークシート分析
2		育苗・苗生産の歴史と現状 育苗技術の実際と応用 育苗培地の種類と作成方法	加温の必要性を理解し、トンネルおよび温床の設置を行う。 育苗方法の種類を学び、本栽培に適した育苗方法を選定する。 用土を構成する資材の種類とその特徴を理解し、配合する。 施肥設計する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析
3		種まきおよび個々の育苗管理技術 復習 学年末考査	播種方法の違いと選定方法を学ぶ。 培養管理を行う。 発芽の様子を細かく観察し、鉢あげの時期を正確に行う。 温度、水管理、日照について学ぶ。 前時までの学習内容を理解し、学習内容を整理する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析

4 評価の観点

関心・意欲・態度	生産技術の仕組みや野菜生産の果たす社会的な意義や役割などについて関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、労働生産性や資本生産性などの向上を図る能力と態度を身に付けている。
思考・判断・表現	生産と経営の現状や今日的な課題を見だし、野菜にかかわる体験的、継続的な栽培活動を通して、観察、実験、調査、記録などの活動をし、その経過や結果を的確に表現している。
技能	実践的な生産活動と、知識の深化を図る課題解決的な学習活動などを通して、基本的、体系的な技術を習得するとともに、野菜生産などに応用できる体系的な技能を身に付けている。
知識・理解	野菜の生理・生態的な特性や生産に適した環境とそれらと生育の相互関係などの基本的な概念や各種の野菜生産、経営管理や情報管理及びフードシステムを理解し、知識を身に付けている。

5 評価の方法

<p>考査、ノート提出及び、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。</p>

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・出席を常にしてください。 ・実習を伴う科目です。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 ・ワークシート、小テスト、定期考査問題等を整理するために、糊、ハサミを各自で用意してください。 ・次年度の実習に向け、機械、用具の名称や使用目的を覚えてください。 ・ノート提出を定期的に行ってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 ・安全に配慮して、実習してください。
--

「植物バイオテクノロジー」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	植物バイオテクノロジー (実教出版)	副教材等	日本農業技術検定《3級》テキスト (全国農業高等学校長協会)

1 学習の到達目標

植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を習得し、植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を理解するとともに、農業の各分野で活用する能力と態度を身に付ける。

2 重点目標

- ・植物バイオテクノロジーの特質を理解し、各分野で活用する知識を身につける。
- ・組織培養など、無菌操作の知識を身につけ、関連分野で活用する能力と態度を身につける。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	バイオテクノロジーの意義と役割	バイオテクノロジーとは何だろうか	「植物バイオテクノロジー」学習の意義や、学習や評価の方法を理解する。 バイオテクノロジーという言葉の意味、暮らしの中のバイオテクノロジーの役割やあゆみを理解する。	行動観察 ワークシート分析 口頭試問 行動観察・結果確認 小テスト分析
5	人間社会とバイオテクノロジー	人間社会とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーの体系と技術、様々な分野で応用されていることを理解する。	小テスト分析 行動観察・結果確認
		復習 中間考査	板書ノート・ワークシートを整理し、学習内容の整理定着と、わかりやすいノート作成を行う。	行動観察・結果確認 ノート分析
6	植物バイオテクノロジーの基礎	植物とは何だろうか	植物の特徴と多様性を理解する。 植物のからだのなりたちと細胞の構造と機能について理解する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 口頭試問
7		植物のからだ	胚の発生段階と細胞に起こる変化受精の特性について理解する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
		植物の生殖と遺伝	植物の繁殖方法を知り植物体再生の経路、増殖技術や課題を理解する。	小テスト分析 行動観察・結果確認
		復習 期末考査	板書ノート・ワークシートを整理し、学習内容の整理定着と、わかりやすいノート作成を行う。	ノート分析
9	植物組織培養の基礎	植物の細胞分裂と分化	体細胞分裂と減数分裂についてその違いと理由を理解する。 細胞の分化と分化全能性を理解する。植物ホルモンの種類と分化、脱分化に及ぼす植物ホルモンの役割を学ぶ。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
10		組織培養とは何だろうか	植物組織培養とその目的を理解し、組織培養の利用分野について理解する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
		組織培養の方法	組織培養の手法、原理を理解する。 品種改良を目的とした先端技術の種類、成果について知り、組織培養の可能性を理解する。	ワークシート分析 行動観察・結果確認
		復習 中間考査	板書ノート・ワークシートを整理し、学習内容の整理定着と、わかりやすいノート作成を行う。	ノート分析

11	植物組織培養の基礎	組織培養の手順	培地の種類、培地の構成要素を学び、貯蔵液の調合、培地の調合ができる知識を身につける。また培地成分の重要性を理解し、培地の調整方法を学ぶ。 組織培養の手順とポイントを学ぶ。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析
12		日本農業技術検定 3級受検対策 復習 期末考査	培地の組成とあわせ、植物の成長に必要な要素、肥料について理解する。 板書ノート・ワークシートを整理し、学習内容の整理定着と、わかりやすいノート作成を行う。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 ワークシート分析
1	植物組織培養の実際	組織培養の施設と機器・器具	培用材料の殺菌方法、培地や器具滅菌方法について学び、「無菌」という状態の特質を理解する。 培養条件の重要性と、条件設定の要素、それによる細胞の分化能の発現について理解する。	行動観察・結果確認 ワークシート分析 ワークシート分析
2			ハードニング条件、培養容器内外の条件の違いについて学び、植物細胞内で起こる順応について理解する。 次年度の実験実習で使用する無菌操作室で施設や設備を観察し、機器の名称と使用方法について学ぶ。	ワークシート分析 行動観察・結果確認 小テスト分析 行動観察・結果確認
3		復習 学年末考査	板書ノート・ワークシートを整理し、学習内容の整理定着と、わかりやすいノート作成を行う。	ノート分析

4 評価の観点

関心・意欲・態度	植物バイオテクノロジーの意義や役割など、植物バイオテクノロジーの現状や今日的な課題などに関心を持っている。組織培養技術を利用して野菜等の品質改善を図るなど農業の各分野で活用する能力が身に付いている。
思考・判断・表現	品種改良など利便性の追求とともに安全性の確保を図ることの重要性を理解している。植物を中心としたバイオテクノロジー関連分野における自らの職業生活について考えている。
技能	組織培養などの体験的な学習を通して、無菌操作、培養、順化等に関する技術を習得している。
知識・理解	植物体のもつ分化全能性等の特性とバイオテクノロジーの技術的特質について理解している。農業の各分野におけるバイオテクノロジーの意義や役割を理解している。細胞や遺伝子の構造を理解し、遺伝子の組換えや細胞融合の仕組みに関する知識が身に付いている。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

- ・出席を常にしてください。
- ・単元毎にその範囲をまとめた資料の配布や小テストを行います。
- ・ワークシート、小テスト、定期考査問題等を整理するために、糊、ハサミを各自で用意してください。
- ・次年度の実習に向け、機器、器具の名称や使用目的を覚えてください。
- ・ノート提出を定期的に行ってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。

「生物活用」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年 A組
教科書	生物活用 (農文教)	副教材等	日本農業技術検定テキスト・問題集

1 学習の到達目標

園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得し、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解するとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。

2 重点目標

- ・日常生活と園芸の関わりを理解する。
- ・生活の中にある四季を感じ、農業の多面的機能を理解すると共に、生活の質の向上を目指す。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	園芸の活用と効果	暮らしと園芸	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしと園芸の関わりを理解する。 ・園芸とその効果を理解する。 	園芸と暮らしの関係について興味が高まったか確認 経済活動との違いを確認 園芸の活用が理解できたかノート提出で確認
		園芸の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・広がる園芸の活用をする。 ・園芸の持つ多様な効果を理解する。 	
5	栽培管理	栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を磨き他者を思いやる人間性の育成をする。 【実習】 植物栽培 春作物の栽培播種	社会の中での役割を理解できた 適切な栽培管理ができたか確認
		園芸の効果と生かす活用場面	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な園芸活用の場面と取り組みを理解する。 ・創作活動を学ぶ ・快適環境の創成, 管理, 文化, 教育について学ぶ ・健康対策について学ぶ 【実習】 植物栽培 除草・間引き・補植	
6	栽培管理	栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸の療法的活用を理解する。 	園芸の環境整備・社会交流について必要性が理解できたか課題で確認 快適環境の創造管理ができたか確認 健康対策への意識が高まったか課題で確認
7		園芸療法	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸の療法的活用を理解する。 	
7	栽培管理	栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸の療法的活用を理解する。 【実習】 植物栽培 春作物の栽培 植物体の片付け	適切な収穫管理ができているか確認
		期末考査		
9	栽培管理	栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸の療法的活用を理解する。 【実習】 植物栽培 (秋作物の栽培) 圃場準備 播種	適切な実習ができているか確認 草花の持つ多面的機能について理解できたかノート提出で確認
10	草花の栽培と活用	私たちと暮らしと草花活用	<ul style="list-style-type: none"> ・草花の活用とその効果を理解する。 ・草花の特性と活用場面を理解する。 ・生育の特性と活用のポイントを理解する。 	
		草花の特性と活用ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・草花の利用上の特性を理解する。 ・いろいろな活用と管理を理解する。 ・花壇のデザインを理解する。 ・花壇苗の栽培管理と作業の効果を理解する。 	
10	栽培管理	花壇の活用と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇のデザインを理解する。 ・花壇苗の栽培管理と作業の効果を理解する。 	花材によって利用するポイントが異なることが理解できたか確認 花壇栽培の管理方法や、作業効果を理解できたか確認 植物体に対して適切な管理ができたか確認
		栽培管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸の療法的活用を理解する。 【実習】 植物栽培	

11	栽培管理	栽培管理	【実習】植物栽培 収穫・調整	適切に収穫調整片付けが適切にできたか確認 アレンジに必要な花材を判断できるか確認 リボンワークやフローラルテープの活用ができたか実技で確認 日本の四季に適した草花を選べるか課題で確認
	フラワーデザイン	フラワーデザインについて		
12	日本の四季	フラワーデザインの基礎	・日本の四季における草花や植物との関係を理解する。	2学期に学習した内容が理解できているか調査で確認
		日本の四季について		
1	二十四節気について	二十四節気と植物の関係①	・日本に古くから存在する二十四節気について学習する。	日本の文化に興味が高まったか確認 二十四節気と植物の関係を理解できたか確認 節季と暦の関係を理解できたか課題で確認 暦・節季と日本人との関係を学習できたか確認 年中行事について興味を持てたか確認 植物との関係を理解できたか 文化に関係している事を理解したか 学習内容が理解できたか調査で確認
2	年中行事について	二十四節気と植物の関係②	・節季という単語について理解する。	
		二十四節気と植物の関係③	・二十四節季にある節と植物との関係を理解する。	
3		年中行事と植物の関係①	・日本人と植物の関係について学習を深める。	
		年中行事と植物の関係②	・年中行事について学習する。	
		年中行事と植物の関係③	・日常的に行われている行事について理解する。 ・行事と植物の関係を理解する。 ・日本の文化と植物が深く関係していることを知る。	
		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	園芸作物や社会動物の役割や活用方法など、実際に生物を活用した活動を体験することで、生活の質の向上を図る関心・意欲・態度を身に付けている。
思考・判断・表現	生物の特性を活用した活動や療法の特質を理解させるとともに、今日的な課題などについて、ヒューマンサービス関連分野における職業生活として考え、的確に表現している。
技能	園芸作物や社会動物の活用では、体験的・継続的な管理飼育を通して人に及ぼす効用など、生物活用に必要な基礎的な技能を身に付けている。
知識・理解	植物のある環境や農耕・園芸、動物との暮らしが人の健康や生活の改善に活用されてきていること、療法として医療・福祉分野などで活用されていることを理解し、知識を身に付けている。

5 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から評価規準に従い総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・出席を常にしてください。 ・実習を伴います。実習に必要な実習服、教具を準備し、適切な服装で参加してください。 ・実習内容、感想、反省を時間内に整理し、記入してください。 ・ノート提出を定期的にもってもらいます。各時間内にまとめ、常に整理されている状態にしてください。 ・安全に配慮して、実習してください。

令和4年度「農業情報処理」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	園芸科 2年A組
教科書	農業情報処理 (実教出版)	副教材等	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集3級テキスト

1 学習の到達目標

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報に関する知識と技術を習得するとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。

2 重点目標

- ・時間厳守、適切な態度で授業に臨む。
- ・基本的なパソコン操作を習得する。
- ・ワープロソフト (Word) 及び表計算ソフト (Excel) の操作を学習し理解する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第3章 コンピュータによる情報の活用 2. 日本語ワードプロセッサの利用	ワープロソフトウェアの利用 (p50～59)	日本語ワードプロセッサ (ワープロ) の特徴と機能を理解する。	ワープロソフトに主体的に取り組むことができるかを確認
5			Word を活用し、キーボードを利用した文字の入力実習を通して、ワープロの利用方法とキーボード操作を習得する。	速度問題に積極的に取り組むことができているかを姿勢と入力データで確認
6			授業始めの10分間で、文章の入力問題に取り組む。(以下、「速度問題」と表記、年間を通して繰り返し実施)	速度問題に取り組み、的確に印刷し、提出することができるかを提出物で確認
7		期末考査	繰り返しの入力実習を通して、キーボード操作の習得を着実にすすめ、速度と正確さを高める。 文書作成に必要な機能と利用方法を理解する。(以下、「文書作成問題」と表記、次の学習項目まで繰り返し実施)	速度問題に取り組み、速度が向上し、正確に入力することができるかを入力データと提出物で確認
9	2. 日本語ワードプロセッサの利用 表計算ソフトウェアの基礎	ワープロソフトウェアの利用	繰り返しの入力実習を通して、文書作成の速度と正確さが向上できる。	Word 機能を理解し、文書を作成することができるかを入力データで確認
10			1学期同様に Word を使用し学習をする。 Word を活用し、キーボードを利用した文字の入力実習を通して、ワープロの利用方法とキーボード操作を習得する。	文書作成問題に取り組むことで、速度が向上し、正確に入力することができるかを入力データ確認と提出物で確認
10			10分間で速度問題をして繰り返し実施する。 入力文字数を Excel に記録し保存する。	速度問題に取り組み、的確に印刷し、提出することができるかを提出物で確認
			繰り返しの入力実習を通して、キーボード操作の習得を着実にすすめ、速度と正確さを高める。	速度問題に取り組み、速度が向上し、正確に入力することができるかを入力データと提出物で確認

11	(日本語ワードプロセッサの利用)	(ワープロソフトウェアの利用)	文書作成に必要な機能と利用方法を理解する。 文書作成の練習問題に取り組み作成に必要な技術の習得をする。	Word 機能を理解し、文書を作成することができたか確認 (行動観察・入力データ確認)
12	計算ソフトウェアの基礎		繰り返し、文書作成問題の実習を通して、文書作成の速度と正確さが向上できる。 (※速度問題および文書作成問題の内容については、公益財団法人全国商業高等学校協会ビジネス文書実務検定の2級～3級程度を参考にして作成。)	文書作成問題の実習を通し、利用方法が理解できたか確認 (行動観察) 毎回の文書作成問題に取り組みすることで、速度が向上し、正確に入力することができたか確認 (行動観察・入力データ確認・提出物確認)
1	2. 表計算ソフトウェアの利用	表計算ソフトウェアの基礎と編集機能	表計算ソフトウェアの特徴と機能を理解する。	Excel への関心が高まったか確認 (行動観察)
2	3. 表計算ソフトウェアの応用		表計算ソフトウェアの利用方法を習得する。 関数の利用方法を習得する。 グラフの作成方法を習得する。	文字と数値を正確に入力することができたか確認 (入力データ確認) データの修正や計算式の作成、編集が正確にできたか確認 (行動観察・入力データ確認)
3	第5章 農業情報の分析と活用	農業情報の収集と分析 農業生産や経営情報の分析と活用 環境に関する情報の分析と活用 学年末考査	表作成やグラフ作成の実習を通して、他科目での活用方法を理解し、習得する。 農業情報の収集と分析を理解する。 農業生産や経営情報の分析と活用を理解する。 環境に関する情報の分析と活用を理解する。 授業内に実施	資料を読み取り、表を作成することができたか確認 (入力データ確認・提出物確認) 表作成の実習を通して、表計算ソフトウェアの利用方法を理解できたか確認 (行動観察) 外部情報がどのような分野で利用されているか理解することができたか確認 農業の各分野における情報の種類や特徴を学び、理解することができたか確認 情報の収集方法や、活用方法の基礎を利用することができたか確認 (行動確認、提出物確認)

4 評価の観点

関心・意欲・態度	進展する情報社会の特徴や仕組みに関心を持ち、その仕組みや効果について体系的に取り組むとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を身に付けている。
思考・判断・表現	学校の実習や産業現場での体験を通して、目的や条件に合わせて各種の情報の価値を判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・分析・統合・加工・発信などの方法や手法を選択できるとともに、成果を効果的に表現している。
技能	情報技術や情報通信ネットワークの活用、その仕組みや効果についての体系的な学習を通して、情報に関する基本的、体系的な技術を習得するとともに、農業情報及び環境情報に関する体系的な技能を身に付けている。
知識・理解	多様で大量の情報と情報技術が産業社会や人間に与える影響などを考察し、情報の意義や役割を体系的に理解し、農業情報及び環境情報に関する知識を身に付けている。

5 評価の方法

考査、4観点(関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解)、出席点を総合的に評価する。
--

6 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席を常に心がけてください。 ・パソコンを使う演習中心の科目です。機器類を丁寧に扱い、室内を常に清潔にしてください。 ・移動教室なので集合時間を厳守してください。 ・漢字の読み方及びローマ字変換に関する知識が大切になります。
--

令和4年度 自動車科「実習」シラバス

単位数	4 単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	なし	副教材等	3級自動車ガソリンエンジン／ 3級自動車シャシ (社団法人日本自動車整備振興会連合会)

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

工業の各分野に関する技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

2 重点目標

自動車部品の分解・組立・測定を通して、機械要素の原理や基本的知識を理解する。また、正しい作業を行うことで安全意識を高める。

3 学習の計画

ローテ	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	2グループ2ローテーションとして実施			
1	ガソリンエンジン	<p>補機類</p> <p>シリンダーヘッド</p> <p>シリンダーブロック</p> <p>実技テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する4サイクルガソリンエンジンについて学ぶ。 ・使用工具の名称および取り扱いを確認する。 ・外観スケッチにおいて補機類の取り付け状態を確認する。 ・補機類を取り外し、専用スタンドにエンジンを取り付ける。 ・シリンダーブロックからシリンダーヘッドを取り外す。 ・シリンダーヘッドを分解する。 ・シリンダーブロックを分解する。 ・各部品の名称及びエンジンの中での役割、材質・形状が持つ意味について学ぶ。 ・各部品の点検および測定を行い、再使用の可否、修正の必要性の有無について判断する。 ・シリンダーヘッドを組み立てる。 ・シリンダーブロックを組み立てる。 ・シリンダーブロックにシリンダーヘッドを組み付ける。 ・バルブタイミング及びバルブクリアランスの点検・調整を行う。 ・エンジンの試運転を行い、点火時期の調整をする。 ・実習報告書の作成と実技試験を通して理解を深め、学習内容を確認する。 ・実技試験を通して全体の学習内容を確認する。 	<p>学習活動の観察</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【技能】</p> <p>【知識・理解】</p> <p>作品製作・実技試験</p> <p>・実習報告書</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【技能】</p> <p>【知識・理解】</p>
2	シャシ	<p>マニュアルトランスミッション</p> <p>ディファレンシャルギヤ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用工具の名称および取り扱いを確認する。 ・変速動作の作動確認及び入出力軸の回転数比の観察を通し、自動車における本装置の役割を学ぶ。 ・本装置を分解する。各部品のスケッチを行う。 ・各部品の名称及び材質・形状が持つ意味について学ぶ。 ・本装置を組み立てる。 ・測定及び作動確認を行い、本装置が正しく組み立てられたことを確認する。 ・実習報告書の作成を通して理解を深め、学習内容を確認する。 ・カットモデルを用いて差動中の各部品の動きを観察し自動車における本装置の役割を学ぶ。 ・本装置を分解する。各部品のスケッチを行う。 ・各部品の名称及び材質・形状が持つ意味について学ぶ。 	

		ステアリング装置	<ul style="list-style-type: none"> ・本装置を組み立てる。 ・測定及び作動確認を行い、本装置が正しく組み立てられたことを確認する。 ・実習報告書の作成を通して理解を深め、学習内容を確認する。 	
		ブレーキ装置	<ul style="list-style-type: none"> ・ラック&ピニオン式とボールナット式の相違点を中心に、自動車における本装置の役割を学ぶ。 ・本装置を分解する。各部品のスケッチを行う。 ・各部品の名称及び材質・形状が持つ意味について学ぶ。 ・本装置を組み立てる。 ・測定及び作動確認を行い、本装置が正しく組み立てられたことを確認する。 ・実習報告書の作成を通して理解を深め、学習内容を確認する。 	
		実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験を通して全体の学習内容を確認する。 	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	工業技術に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
技能	工業技術に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
知識・理解	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。

5 評価の方法

<p>【感心・意欲・態度】、【思考・判断・表現】、【技能】および【知識・理解】の4観点から総合的に評価する。</p> <p>ただし、評価においては全パートを通して判断するため、特定のパートにおいて実習報告書・作品等が未提出、または試験に不合格の場合は欠点とする。</p> <p>また試験は定期考査と関係なく各パートの終了時に行うこととする。</p>
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>自動車工学で学んだ事について実物を使用し深く学んでいきます。教科書の内容はもちろん、授業で学んだことはしっかりとノートにまとめましょう。小規模の班に分かれて行いますので役割分担するなど協力して進めていってください。授業では全体で進度を合わせて進めていきますので、遅れている班は放課後に補習を行います。実習報告書等の提出期限は必ず守ってください。</p>

令和4年度 自動車科「製図」シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	機械製図 (実教出版)	副教材等	機械製図練習ノート (実教出版)

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を育成する。製図に関する日本工業規格及び工業の各専門分野の製図に関する知識と技術を習得させ、製作図、設計図などを正しく読み、図面を構成し作成する能力と態度を育てる。

2 重点目標

図面を正確に読み、表現する力を育むことで、構造や機構等の仕組みを理解する力を習得する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	①製図器具の使い方	ドラフターの使用法 製図器の使用法	製図室の使用・製図器の使用方法を理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】
	②図面の役割	図面の役割 図面の種類	機械製図が設計者と製作者との間で交わされる言語であり、その必要性を理解する。	練習ノート 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】
	③線・文字の書き方	線の種類と用途 ・太い実線 (外形線) ・細い実線 (寸法線) ・破線 (隠れ線) ・一点鎖線 (中心線)	図面上必要な線の種類・役割を理解する。	【技能】 【思考・判断・表現】
5	④投影図の書き方 投影図のかき方 投影図面の配置 第三角法の書き方	投影図による作図 ・課題① ・課題③ ・課題④	投影図書き方を理解する。 ・課題①：直線と円弧による図面 ・課題③：直線と円弧のつなぎ合わせ図面 ・課題④：円弧と円弧のつなぎ合わせ図面	図面：課題①③④ 【技能】 【思考・判断・表現】
	⑤立体的な図示法	立体的な図示法 ・等角図 ・キャビネット図 ・テクニカルイラストレーション	課題により投影図の書き方、図面の配置を理解する。 立体的な図示法について理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 【技能】 【思考・判断・表現】
6	⑥寸法記入方法	寸法記入方法 ・寸法 ・補助記号 ・寸法公差	製図に関する寸法記入の方法を理解する。	図面：課題①③④ 【知識・理解】 【技能】 【思考・判断・表現】
	⑦製図課題	課題 ・軸受	規格に合った線種 (直線・円弧) を正確に使い、線と線のつなぎ目に注意しながら、明瞭に書く技術を理解する。	
9	⑧製図課題 工具の製図	工具の形状 ・その他の工具 課題 ・スパナ	実際の工具を手にとって観察し、工具の特徴及び種類・用途を理解する。 スパナの図面を書きながら、図面の配置・線種・寸法の記入法を正確に・作業者に見やすい図面を書く技術を理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 図面：課題スパナ 【技能】 【思考・判断・表現】
	⑨製図課題 ねじ	ねじの種類と名称 ・ネジの呼び ・ネジの規格 課題 ボルト・ナット	ねじの名称・種類・規格を学び、ねじの強度について理解する。 課題製図に取組み、ねじの略図法を理解する。 規格に合った線種を正確に・明瞭に・迅速に図面を汚すことなく書く技術を理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 図面：課題ボルト・ナット 【技能】 【思考・判断・表現】
10				

11	⑩製図課題 ジャッキ	ジャッキの種類 ジャッキの仕組み	ジャッキの種類について理解する。 ・パンタグラフジャッキ ・ガレージジャッキ ・ミニジャッキ ミニジャッキにおけるその仕組みを理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】
12		課題 豆ジャッキ	スケッチ図から第三角法で作図する方法を理解する。	図面:課題豆ジャッキ 【技能】 【思考・判断・表現】
1	⑪製図課題 機械部品等の製図	課題の決定 ・機械部品等のスケッチ ・機械部品等の測定	工具・測定具・工業製品等の構造・仕組みを観察し理解する。 マイクロメータ・トルクレンチ・マイクロメータスタンド・セロハンテープカッター・トースカン等を題材としてスケッチをして、製図のもととなるポイントを見つけ出し各部品の測定を行いスケッチ図の書き方を理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】 【技能】 【思考・判断・表現】
2		課題 ・機械部品等の製図	スケッチをもとに、寸法・規格に合わせ第三角法の書き方および正確・明瞭・迅速に書く技術を理解する。	図面:課題 機械部品 【技能】 【思考・判断・表現】
3				

4 評価の観点

関心・意欲・態度	製図に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	製図に関する諸課題について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に技術者として創造的に適切に判断し表現する能力を身につけている。
技 能	製図に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、正確・明瞭・迅速に図面の表し方を身につけ、ものづくりの基本となる製作図を合理的に計画し、適切に活用している。
知 識 ・ 理 解	製図に関する基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、日本工業規格に沿った図面の作図をとおして、ものづくりにおける製図の意義や役割を理解している。

5 評価の方法

<p>授業に対する取組む姿勢【関心・意欲・態度】や各課題における図面の提出【思考・判断・表現】・【技能】・【知識・理解】により総合的に判断し評価する。</p> <p>ただし、評価においては一年間の授業を通して判断するため、未提出の課題がある場合は欠点とする。</p>

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>製図は、ものづくりにおける世界共通の言語といえるものです。正確・明瞭・迅速に書くことが要求され、その技術の基礎を学習する授業です。観察力や分かりやすく伝える表現力を養います。</p> <p>実技を伴う授業であり、細かい作業が多くありますので、コツコツ努力する姿勢や態度が必要です。欠席等をすると作品提出に遅れが生じますので、休まないようにしてください。</p>

令和4年度 自動車科「情報技術基礎」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	情報技術基礎 (実教出版)	副教材等	無

1 学習の到達目標

社会のあらゆる分野で利用されているコンピュータの役割を理解し、コンピュータに関する基礎的な知識と技術を身に付ける。自動車は多くの部分がコンピュータ制御されている。この教科で基礎を学習し、関連教科に於いて発展的な学習をする基礎を修得する。

2 重点目標

生徒の環境を取り巻く情報社会における情報モラルを養う。
情報技術の基礎として、フローチャート (流れ図)、プログラミング、数値変換の仕方を習得する

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第一章 産業社会と情報技術	1 情報と生活	・ 情報とはなにかを学ぶ。	学習活動の観察 ノート提出 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】 期末考査 【技能】 【知識・理解】
		6 情報化社会の権利とモラル	・ 情報化社会の中での、ルールやモラル、権利について学ぶ。 ・ 事例を提示し、考える。	
		7 情報のセキュリティ管理	・ 情報には、なぜセキュリティ管理が必要かを学ぶ。	
5	第三章 プログラミングの基礎	1 プログラミング言語	・ プログラムの基礎について学ぶ。	期末考査 【技能】 【知識・理解】
6	第五章 C言語によるプログラミング	2 四則演算のプログラム	・ <演習>自分の名前を表示するプログラムを作成する。 ・ 整数型データの取扱について学ぶ。 ・ <演習>足し算、ひき算を行うプログラムを作成する。 ・ 実数型データの取扱について学ぶ。 ・ <演習>かけ算、割り算を行うプログラムを作成する。	
7		期末考査		
9	第三章 プログラミングの基礎	3 選択処理	・ scanf 関数について学ぶ。 ・ <演習>scanf 関数を用いた、プログラムを作成する。 ・ if による分岐について学ぶ。 ・ <演習>if 文を用いたプログラムを作成する。 ・ else if による多岐選択について学ぶ。 ・ <演習>else if を用いたプログラムを作成する。	学習活動の観察 ノート提出 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】 期末考査 【技能】 【知識・理解】
10		2 プログラムの作り方	・ 流れ図の作成方法について学ぶ。 ・ <演習>プログラムを参考に流れ図を作成する。	

11	第六章 ハードウェア	1 データの表し方	<ul style="list-style-type: none"> ・2進数, 10進数, 16進数について学ぶ。 ・〈演習〉2進数, 10進数, 16進数の変換を行う。 ・〈演習〉2進数の足し算, 引き算, 掛け算を学ぶ。 	
12		2 論理回路の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・基本論理回路について学ぶ。 ・〈演習〉真理値表, 論理式について学ぶ。 	
		期末考査		
1	第二章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	2 ソフトウェアの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの分類について学ぶ。 	学習活動の観察 ノート提出 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】
2		3 アプリケーションソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。 ・表計算ソフトウェアについて学ぶ。 ・〈演習〉表計算ソフトウェアを用いて, データ処理を行う。 	期末考査 【技能】 【知識・理解】
3	第九章 情報技術の活用	2 情報の収集と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集と整理について学ぶ。 ・データの加工について学ぶ。 	
		3 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについて学ぶ。 ・〈演習〉プレゼンテーション用スライドを作成する。 	
		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち, その習得に向けて意欲的に取り組むとともに, 実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め, 問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており, 情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
技能	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し, 情報技術を利用した情報の収集・活用のために必要な技能を身につけている。
知識・理解	情報技術に関する基礎的な知識を持ち, 社会における情報化の進展と情報の意義や役割, 情報化社会に生きる技術者としての使命を理解している。

5 評価の方法

学習活動の観察・ノート提出・期末考査の点数から, 【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】【技能】【知識・理解】を総合的に判断し評価する。

6 担当者からのメッセージ

<p>説明を受けているときと, 実際に作業するときの切り替えをはっきりさせましょう。プログラムの考え方は, 自動車などの制御を理解する上で重要です。</p> <p>実技を伴う授業なので, 真剣に取り組む姿勢や態度が重要です。欠席するとプログラム制作ができなくなるので, 休まないようにしてください。</p>

令和4年度 自動車科「自動車工学」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	自動車工学 (実教出版)	副教材等	3級自動車ガソリンエンジン, 3級自動車シャシ ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、安全で安心な自動車の提供に必要な資質・能力を育成する。

自動車整備士養成施設として、3級自動車ガソリン整備士および3級自動車シャシ整備士試験の学科試験に対応できるように、自動車の構造・機能及理解し、計算問題に対応できる計算力を身につける。

2 重点目標

自動車の動力源であるエンジンとそれ以外の部分（シャシ）をより詳細に学び、自動車整備士としての基礎知識を習得する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	3級自動車シャシ	第1章 総論	・自動車の原理と性能, 構成, 安全装置を理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】
5		第2章 動力伝達装置	・クラッチ, トランスミッション (マニュアル・オートマチック) トランスファ, ドライブシャフト, ユニバーサルジョイント, ファイナルギア及びディファレンシャルの構造・機能・整備方法を理解する。減速比の計算ができる。	確認小テスト 【技能】 【知識・理解】 練習問題
6		第3章 アクスル及びサスペンション	・車軸懸架式, 独立懸架式, シャシスプリング, ショックアブソーバの構造・機能・整備方法を理解する。	【技能】 【知識・理解】
		第4章 ステアリング装置	・ステアリングの操作機構, ギヤ機構, リンク機構, パワーステアリングの構造・機能・整備方法を理解する。	ノート提出 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】
7		中間考査		中間考査 【技能】 【知識・理解】
7		第5章 ホイール及びタイヤ	・ホイール, タイヤ, タイヤに起こる異常現象, ホイールバランスの構造の構造・機能・整備方法を理解する。	【技能】 【知識・理解】
9		第6章 ホイールアライメント	・キャンバ, キャスタ, キングピン傾角, トー, ターニンググラジアス (左右輪の切れ角) の構造・機能・整備方法を理解する。	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】
10		第7章 ブレーキ装置	・フットブレーキの油圧機構, 安全装置, 制動倍力装置, パーキングブレーキの構造・機能・整備方法を理解する。	確認小テスト 【技能】 【知識・理解】 練習問題
		第8章 フレーム及びボデー	・フレーム, ボデー, 塗装の構造・機能・整備方法を理解する。	【技能】 【知識・理解】 ノート提出 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】

令和4年度 自動車科 「自動車整備」 シラバス

単位数	2 単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	自動車整備／自動車工学（実教出版）	副教材等	無

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、自動車の性能の維持、快適で安全な走行及び環境汚染の防止に必要な資質・能力を育成する。

自動車における電氣的制御の基礎を学習する。基礎的な電子部品や論理回路、コンピュータプログラムによる機器の制御を実習形式で学習する。学習した技術を応用するなど理論と実際を総合的に学習する。

また、協力・責任・勤労など整備士として望ましい態度や習慣を身につける。

2 重点目標

電気・電子の基礎について学び、学習した技術を用いて創意工夫を施して応用していく力を身に付ける。

3 学習の計画

ローテ	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	2グループ2ローテーションとして実施			
1	基本的な電気・電子の回路作成	1 電気・電子回路について	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の電装部品における電気・電子部品の役割を学習し、その基礎となる電気・電子回路について理解する。 	学習活動の観察 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】 作品製作・実技試験 ・実習報告書 【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】 【技能】 【知識・理解】
		2 電気・電子回路の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレッドボードを用いた回路作成を行い、直流回路の電流・電圧・抵抗についての復習をする。 ・ブレッドボードを用いた回路作成を行いトランジスタやダイオードの動作や原理を学ぶ。 	
	論理回路の作成	3 論理回路について	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の電装部品における電気・電子制御の役割を学習し、その基礎となる論理回路について理解する。 	
	4 リレーによる論理回路の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレッドボードを用いてリレーによる基礎的な論理回路設計を行い、作成した論理回路の作動を観察して動作や原理を学ぶ。 		
	自動車制御	5 ロジック IC による制御回路作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ロジック IC を用いて半加算回路、優先回路など応用論理回路設計を行い、作成した論理回路の作動を観察して自動車の制御について理解を深める。 	
	6 実技テスト	実習報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・指示された回路の設計・作成を行う。 ・実習報告書の作成を通して理解を深め、学習内容を確認する。 	

2	7セグメント表示パネルのプログラム制御	1マイコンの基礎	・自動車の中で利用される組み込み型マイコンについて実例などを挙げながら理解する。	
		2PICマイコンについて	・PIC ワンチップマイコンの原理や特徴・使用例などについて学ぶ。	
		3プログラミング言語の基礎	・マイコンに用いられる言語（機械語 C アセンブラなどについて種類や各言語の特徴について学ぶ。	
		4プログラムの基礎	・アセンブラ言語の仕様や命令、レジスタ構造などについて学ぶ。	
		5見本プログラムの作成	・7セグメント表示パネルの動作確認用見本プログラムの作成を通し言語命令セットの概要を学ぶ。	
		6応用プログラムの作成	・7セグメント表示パネルを用いて数字表示のプログラム制御を行い、自動車におけるプログラム制御について理解を深める。	
		7実技テスト 実習報告書	・書き込みソフト（PIC プログラマ）の使い方を含めてプログラミングとハードウェア制御の全般について実技試験を行う。 ・実習報告書の作成を通して理解を深め、学習内容を確認する。	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	自動車整備に監視離知識や技術に関心を持ち、意欲的に探究するとともに、学ぶ態度を身につける。
思考・判断・表現	自動車整備に関する知識や技術に課題等を見つけ、自ら思考・判断し、創意工夫して課題解決する能力を身につける。
技 能	自動車整備に関する基本的な技術を身に付ける。安全に配慮し、自動車整備を合理的に計画し、その技能を適切に活用できる。
知 識 ・ 理 解	自動車整備に関する基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解できる。

5 評価の方法

<p>【感心・意欲・態度】、【思考・判断・表現】、【技能】および【知識・理解】の4観点から総合的に評価する。</p> <p>ただし、評価においては全パートを通して判断するため、特定のパートにおいて実習報告書・作品等が未提出、または試験に不合格の場合は欠点とする。</p> <p>また試験は定期考査と関係なく各パートの終了時に行うこととする。</p>
--

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>目には見えない電気の動きが理解できるようになったり、自分で作ったプログラム通りに機械が動くようになったり、おもしろい内容ばかりです。授業は回を追うごとに積み重ねになるので、学習した内容を復習するなどしてしっかり理解してから次の回に進むようにしてください。欠席した場合は補習を依頼してください。</p> <p>実習報告書などの提出期限は必ず守ってください。</p>
--

令和4年度 自動車科「原動機」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	自動車科 2年 B組
教科書	原動機（実教出版）	副教材等	無

1 学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原動機によりエネルギーを有効活用することに必要な資質・能力を育成する。

実験を通して流体の性質と力学を理解し、エネルギー変換と環境についての知識を習得する。自動車の性能試験を通して、熱エネルギーと機械的仕事から熱力学と力学の関わりを理解する。

2 重点目標

性能試験を通して自動車のエンジン性能を含めた各種性能を理解する。

流体実験を通して流体機械について動作原理を理解する。

3 学習の計画

ローテ	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
	2グループ2ローテーションとして実施			
1	性能試験	<p>内燃機関の分類と利用について学ぶ。</p> <p>温度と熱量について学ぶ。</p> <p>熱エネルギーと仕事の関係を学ぶ。</p> <p>内燃機関の熱効率を学ぶ。</p> <p>往復動機関の運転と性能試験について学ぶ。</p> <p>シャシダイナモメータの構造と測定原理</p> <p>筆記試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある内燃機関がどのような方に分類されるかを学ぶ。 ・セルシウス温度と絶対温度の関係を理解している。 ・熱力学の第1法則について学ぶ。 ・理想気体の状態式について学ぶ。 ・熱力学の第2法則について学ぶ。 ・内燃機関の熱効率を向上させるには圧縮比を高める必要があることを理解する。 ・自動車で行う性能試験の測定項目を理解している。 ・性能曲線を読み取る。 ・軸出力・軸トルクを理解している。 ・燃料消費率・正味熱効率を理解している。 ・運転に伴う各種損失を理解している。 ・原動機に望まれる特性を理解する。 ・エンジンと変速装置の関係を理解する。 ・走行に伴う各種抵抗を理解する。 ・走行性能線図を読み取る。 ・自動車の各種性能試験を行うシャシダイナモメータの構造と測定原理を学ぶ。 ・実習報告書の作成と実技試験を通して理解を深め、学習内容を確認する。 ・筆記試験を通して全体の学習内容を確認する。 	<p>学習活動の観察</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【技能】</p> <p>【知識・理解】</p> <p>筆記試験・実習報告書</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【技能】</p> <p>【知識・理解】</p>

2	流体実験	<p>エネルギーの利用と変換 エネルギー利用の歴史 エネルギーと動力 エネルギーの将来</p> <p>流体機械 流体機械の基礎</p> <p>流体の基本的性質</p> <p>圧力 管路の流れ 流体のエネルギー</p> <p>流体の計測 圧力の測定 流速の測定 流量の測定</p> <p>ポンプ 分類と利用 遠心ポンプ 軸流ポンプ 斜流ポンプ ターボポンプ</p> <p>筆記試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近なエネルギーについて考える。 人力と畜力について考え今日との異なりや発展を意識する。 エネルギーを活用してきた歴史を理解し考える。 有限なエネルギーと人間生活の変化とエネルギー利用を学ぶ。 流体について考え水と空気を理解する。 代表的なポンプについて考える。 流体の基礎的3要素を理解する。 圧力について空気密度を用い理解する。 定常流, 否定常流について理解する。 流体が持っているエネルギーの種類を理解する。 実験の計測器から, 流体の圧力・流速・流量を測定する。 ポンプの種類を学ぶ。 用途と構造を理解する。 各種ポンプの形状, 用途, 特性の概要を理解する。実際の活用例や規模, 歴史を知り, ポンプと流体の関係を理解する。 実習報告書の作成と実技試験を通して理解を深め, 学習内容を確認する。 筆記試験を通して全体の学習内容を確認する。 	
---	------	---	--	--

4 評価の観点

関心・意欲・態度	各種原動機に関心を持ち, エネルギー消費と環境問題との関連を図る。新エネルギーの活用などに, 意欲的に探究しようとするとともに, 安全に有効活用する能力を身につけている。
思考・判断・表現	原動機が社会生活や産業において果たしている重要性を見だし, 新エネルギーの活用について探求すし, レポートとして提出できる。
技能	流体実験や性能試験実習を通して, 基本操作を習得するとともに, それらの課程や結果を的確に記録, 整理, 探究する技能を身につけている。
知識・理解	流体機械の構造, 機能を理解し, 基本的な力学計算能力を身につけている。また, 性能試験の基本を理解し自動車関連法規の概要を理解している。

5 評価の方法

<p>【感心・意欲・態度】、【思考・判断・表現】、【技能】および【知識・理解】の4観点から総合的に評価する。</p> <p>ただし、評価においては全パートを通して判断するため、特定のパートにおいて実習報告書・作品等が未提出、または試験に不合格の場合は欠点とする。</p> <p>また試験は定期考査と関係なく各パートの終了時に行うこととする。</p>
--

6 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス, 授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

<p>安全で正しい実験実習の手順を学んだ後, 正確な実験を行い, その結果を忠実にまとめることにより, 理論が理解できる。実験・実習を伴うので事故がないよう心がけること。実験結果をきちんと分析・考察しレポートにまとめ上げるのが重要である。</p>

令和4年度 商業科「マーケティング」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	情報処理 科 2年C組
教科書	マーケティング (実教出版)	副教材等	マーケティング問題集 (実教出版)

1 学習の到達目標

マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について理解する。
マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。

2 重点目標

マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの全体像を理解する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1章 現代市場とマーケティング	現代市場の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・現代市場の特徴とその背景について学ぶ。 ・寡占市場の成立と規制緩和政策の進行が、価格形成に影響を与えている状況を理解する。 ・市場環境がマーケティング理念に影響を与え、その変遷がマーケティングを発展させてきたこと、そして現在では顧客満足の実現が図られていることについて理解する。 ・マーケティングの全体像をつかみ、マーケティング計画策定の手順とマーケティング管理について理解する。 	授業態度 副教材問題集の問題解答 小テスト解答
	第2章 市場調査	マーケティングの概要		
5		市場調査の意味 市場調査の手順 市場調査の方法 市場調査の実習	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査ではマーケティング活動の出発点であることを理解し、その広範な内容を整理する。 ・市場調査の手順を理解する。 ・全数調査と標本調査の使い分けを理解し、標本調査の手順を理解する。 	提出物 考査問題に対する解答点数
		中間考査		
6	第3章 消費者行動	消費者行動と購買	<ul style="list-style-type: none"> ・購買を消費者による問題解決行動として位置づけ、5段階からなるその意志決定過程を理解する。 ・AIDASの理論を取り上げて、消費者が受け取る情報や刺激について理解する。 ・購買意志決定過程に影響を及ぼす要因について、個人差要因と社会的環境要因に分けて理解する。 ・情報の内部探索と外部探索の関係を理解する。 ・認知的不協和の行動体験について認識する。 	授業態度 副教材問題集の問題解答 小テスト解答
		購買意志決定過程		
7		製品のライフサイクルと普及	<ul style="list-style-type: none"> ・PLCの各段階の特徴とそれぞれそこで実施すべきマーケティング活動について理解する。 ・製品の普及と顧客層の変化をPLCの各段階に関連づけて理解する。 	提出物 考査問題に対する解答点数
		期末考査		
9	第4章 販売計画	販売計画と販売予測	<ul style="list-style-type: none"> ・販売計画は、企業の積極的な意志を示し、マーケティング計画策定の前提となることを理解する。 ・販売予測の方法を理解することで、時系列分析や指数計算といった計数把握の視点を養う。 ・販売計画の立案・実施・統制の流れを理解する。 ・売上見込高と売上目標高の違いを理解し、後者の最低条件として損益分岐点の存在を認識する。 	授業態度 副教材問題集の問題解答 小テスト解答
		販売計画の立案・実施・統制		
10	第5章 製品計画	製品計画の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・製品計画は、企業の利益の実現と社会の長期的発展の基礎となるものであることを認識する。 ・製品アイテム・ライン・ミックスの関係を明確に把握させ、製品ミックスの拡大と縮小について理解する。 	提出物 考査問題に対する解答点数
		製品ミックスと製品政策		
	第6章 仕入計画と商品管理	仕入計画 商品管理	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入計画の立案においては、仕入優先ではなく、販売優先の考え方が重要であることを理解する。 ・商品管理の業務は、在庫管理と商品の物的管理とからなることを理解する。 	
		中間考査		

11	第7章 販売価格	販売価格の決定 価格戦略	<ul style="list-style-type: none"> 様々な価格の種類と販売価格の構成について理解するとともに、値入れについて学ぶ。 店舗に示されている販売価格には、様々な工夫や思惑が込められていることを理解する。 	授業態度 副教材問題集の問題解答 小テスト解答
	第8章 販売経路	販売経路の設定 販売経路の強化 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 販売経路は多数の企業によって構成されており、販売経路政策は、いわばそのチームワークを高めるための作戦であることを理解する。 販売経路の系列化は、ともに戦う集団づくりであり、それには、前方統合型と後方統合型の2類型があることを理解する。 	指名による質問の解答 提出物 考査問題に対する解答点数
1 2 3	第9章 販売促進	販売促進の重要性	<ul style="list-style-type: none"> 販売促進をコミュニケーション活動として理解したうえで、その説得機能を認識する。 	授業態度 副教材問題集の問題解答
		広告	<ul style="list-style-type: none"> 広告の役割を、経済的なものと社会的なものに分けて理解する。 	小テスト解答
		販売員活動	<ul style="list-style-type: none"> 販売促進における販売員活動の位置づけを理解し、店舗販売と訪問販売に分け、顧客の心理を分析しながら、手順と要点を把握する。 	指名による質問の解答
		ブランド	<ul style="list-style-type: none"> ブランドの形式的・部分的な意味を理解する。 	提出物
		信用販売	<ul style="list-style-type: none"> 信用販売は、与信行為と受信行為から成り立っていること、また、信用販売には、販売促進効果に加えて社会経済的な効果があることを認識させる。 	考査問題に対する解答点数
		その他の販売促進 学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 販売サービスについて、販売時に行われるものとアフターサービスに分け、それぞれの種類と意義を理解する。 	

4 評価の観点

関心・意欲・態度	マーケティングについて関心を持ち、マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、マーケティング活動を行う実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	マーケティング活動を計画的、合理的に行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。
技能	マーケティングに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、マーケティング活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知識・理解	マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、マーケティングの意義や役割について理解している。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>マーケティングの学習は、専門的ではありませんが、とても身近で具体的なものです。授業中は常に身近なものをイメージしながら、積極的に参加してください。また、指示された提出物は必ず提出してください。</p> <p>また、商業経済検定2級の取得にむけて、授業内で学習します。</p>
--

令和4年度 「財務会計Ⅰ」 シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年C組
教科書	新簿記（実教出版） 新財務会計（実教出版）	副教材等	全商2級簿記問題集（実教出版）

1 学習の到達目標

簿記に関する知識と技術を習得させる。企業での取引・記帳・計算の意義や役割について理解させるとともに社会で活躍できる能力と態度を育成する。

2 重点目標

企業で働いているイメージを持ちながら学習に取り組む。解らなくなっても反復練習を行い、困難を乗り越える人材育成を行う。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
4	第24章 決算整理	1節 費用・収益の繰り延べと見越し	来年度分の費用、収益の支払いと受け取りを区分する事を理解する。	中間考査 期末考査 課題 平常点
5	第25章 財務諸表の作成	2節 有価証券の評価	買入価額と現在価額の差額を理解する。	
6	第26章 特殊な商品売買の取引	1節 2区分損益計算書と貸借対照表	記入の仕方を覚え表作成できるように練習問題を繰り返し解答する。	
	第27章 特殊な手形の取引	1節 割賦販売 2節 委託販売 3節 未着商品売買	特殊な取引の仕組みを理解する。	
7	第28章 仕訳帳の分割	1節 自己受為替手形 2節 手形の書き換え、不渡り	手形のしくみを理解し商人はどのような場面で使用するのかを考える。	
		1節 特殊仕訳帳としての現金出納帳、当座預金出納帳	記入の仕方を覚え表作成できるように練習問題を繰り返し解答する。	
9	第29章	1節 5伝票制	記入の仕方を覚え練習問題を繰り返し解答する。	
10	5伝票の記帳	2節 伝票の集計と転記	本店、支店でどちらが支払いしたのかを理解する。	
11	第30章 本支店の取引	1節 本支店間の取引 2節 支店相互間の取引	支店相互取引はどちらが支払い、受け取りかを理解する。	
	第31章 本支店の財務諸表の合併	1節 本支店の財務諸表の合併	表作成の手順を理解し、練習問題を繰り返し身につける。	
12	第1章 企業と会計	1節 財務会計の機能 2節 会計公準	会計の基礎的前提である会計公準を理解する。	期末考査 課題 平常点

1	第2章 企業会計制度と会計法規	1節 企業会計制度 2節 会計法規 3節 企業会計原則	なぜ各企業共通で使用する原則があるのかを考える。 企業は明瞭に会計処理をして脱税しない前提であることを理解する。	学年末考查 課題 平常点
2	第3章 貸借対照表のあらまし	1節 貸借対照表とその役割 2節 貸借対照表の区分	区分表示に慣れるように反復練習をする。	
3	第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産	1節 資産の意味、分類 2節 資産の評価 1節 当座資産の意味 2節 流動資産としての有価証券	資産の種類を理解し適切に評価する。 当座資産の種類を把握し、その意味を理解する。	

4 評価の観点

① 関心・意欲・態度	簿記の仕組みや情報の意義と役割について関心を持ち、適切に活用しようとしているか。
② 思考・判断・表現	簿記の仕分け、表作成等の練習問題を整理して考え判断することができているか。
③ 技能	多くの練習問題を反復練習し基礎力を自分なりに理解することができているか。
④ 知識・理解	日々の積み重ねを大切にして、意欲的に簿記検定取得や将来の仕事に活かそうとしているか。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

電卓、赤ボールペン、定規、筆記具は必要なので各自で用意してください。
わからない点は担当教諭に遠慮なく質問すること。

令和4年度 商業科「ビジネス情報」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年C組
教科書	ビジネス情報 (実教出版)	副教材等	情報処理検定模擬問題集2級 (実教出版) 情報処理検定模擬問題集1級 (実教出版)

1 学習の到達目標

情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を習得し、情報を効率的に処理することの重要性について理解する。
ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用する能力と態度を育てる。

2 重点目標

自分で考え解決できる能力を身につける。
検定に合格できる知識と技術を習得する。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	1章 ビジネスと情報	1節 情報化社会とビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスと情報の関係を学習し、情報活用の知識を習得する 	学習意欲・授業態度
5	3章 表計算ソフトウェアの活用	3節 ビジネス計算	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな関数を利用して、ビジネス計算を行う ・主に使われる関数について学習する (RANK 関数・VLOOKUP 関数・INDEX 関数・SUMIF 関数・COUNTIF 関数) 	学習意欲・実習状況 実習状況・提出物
		中間考査		考査得点
6	4章 データベースソフトウェアの活用	・ビジネス情報とデータベース	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの特徴や基本的な機能について学習する ・データベース関数について学習する 	学習意欲・授業態度 学習意欲・実習状況
7	4章 データベースソフトウェアの活用	・SQLの操作	<ul style="list-style-type: none"> ・SQLの操作方法を習得する 	実習状況・提出物
		期末考査		考査得点・出席状況
9	3章 表計算ソフトウェアの活用	1節 集計処理	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート間の集計や、グループ集計、クロス集計を学習する ・情報処理検定試験2級の問題演習をする 	学習意欲・実習状況
10	3章 表計算ソフトウェアの活用	2節 オペレーションズリサーチの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションや線形計画について学習する ・最適解を求める方法を学習する (ゴールシーク、ソルバーの機能) 	学習意欲・提出物 実習状況・提出物
		中間考査		考査得点

11	3章表計算ソフトウェアの活用	3節ビジネス計算	・グラフを用いた販売分析について学習する ABC分析などの活用方法について学習する	実習状況・提出物
12		期末考査	・財務関数を用いた財務分析について学習する	実習状況・提出物 考査得点・出席状況
1	2章 情報通信ネットワークの活用	2節ネットワークの構成と管理	・システムの構成や管理について学習する ・情報処理検定試験1級・2級の問題演習をする	学習意欲・授業態度
2		4節 情報セキュリティ管理	・セキュリティ管理やデータ管理の意義と役割を学習する	学習意欲・提出物
3	5章 ソフトウェアを活用したシステム開発	1節システム開発の基礎	・システム開発の開発モデルと開発手法について学習する	学習意欲・提出物 考査得点・出席状況
		学年末考査		

3 評価の観点

関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
思考・判断・表現	適切な手段を用いて情報を収集・処理し、要求に応じた適切なシステム開発の要件を整理するなどの思考・判断力・表現力を身につけている。
技能	ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。
知識・理解	ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

説明をしっかりと聞き、その後、自分で考えながら問題を解いていくようにして下さい。分からないところは、そのままにしないで質問をするようにして下さい。実習をしっかりやることによって、理解が深まっていくと思います。
--

令和4年度 商業科「原価計算」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年C組
教科書	原価計算 (実教出版)	副教材等	最新段階式 簿記検定問題集 全商1級原価計算 (実教出版)

1 学習の到達目標

原価計算の基本的な考え方と算法および工業簿記の記帳法を理解しながら、原価を中心とする会計情報を活用する方法を学ぶ。主体的な学習を通じて、原価計算および簿記に関する基本事項の習得や、原価情報を活用する能力と態度を身に付ける。全商簿記検定1級取得を目標とする。

2 重点目標

様々な原価計算方法について理解し、製造原価を求めるための計算をすることができる。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1編 原価計算の基礎	第1章 原価と原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記と原価計算の関係、原価の意味（製造原価・総原価）を学ぶ。 ・原価要素の性格とその分類、及びその集計のしかたと原価計算表の役割を学ぶ。 ・原価計算の4つの目的、手続き、期間、種類について学ぶ。 	授業態度
		第2章 原価計算のあらまし		副教材問題集の問題解答
5	第2編 原価の費目別計算	第3章 工業簿記	<ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記における勘定記入の特徴、及び工業簿記特有な勘定科目について学ぶ。 ・工業簿記の一連の記帳手続きと全体的な構造を理解する。 ・材料費の分類とその内容、及び棚卸減耗について学ぶ。 ・予定価格により消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳法を学ぶ。 ・労務費の分類とその内容、及び予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を学ぶ。 ・経費の意味とその分類、及び消費高の計算と記帳方法を学ぶ。 	小テスト解答
		第4章 材料費の計算と記帳		指名による質問の解答
		第5章 労務費の計算と記帳		提出物
6		第6章 経費の計算と記帳		提出物
		中間考査		考査問題に対する解答点数
7	第3編 原価の部門別計算と製品別計算	第7章 個別原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算のしくみと原価計算表の記入方法を学ぶ。 ・原価元帳と製造勘定の関係を学ぶ。 ・製造間接費の配賦について学ぶ。 ・製造間接費の差異分析を学ぶ。 ・仕損品・作業くずの処理を学ぶ。 ・部門別個別原価計算の必要性を学ぶ。 ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割を学ぶ。 ・部門費配分表、部門費振替表の作成方法と仕訳について学ぶ。 ・製造部門費予定配賦表の作成方法と仕訳について学ぶ。 	授業態度
		第8章 部門別個別原価計算		副教材問題集の問題解答／小テスト解答／指名による質問の解答
		期末考査		提出物 考査問題に対する解答点数
9		第9章 総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算と総合原価計算の違いについて学ぶ。 ・月末仕掛品完成品換算数量・加工費・加工進捗度などの用語の意味を理解する。 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算方法を学ぶ。 ・単純総合原価計算表の作成と記帳法について学ぶ。 ・等級別総合原価計算と組別総合原価計算の特徴について理解し、計算方法について学ぶ。 ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて学ぶ。 ・半製品について学ぶ。 ・減損の意味とその処理方法について学ぶ。 ・副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について学ぶ。 	授業態度
10		第10章 工程別総合原価計算		副教材問題集の問題解答／小テスト解答／指名による質問の解答
		第11章 総合原価計算における仕損じなどの処理		提出物
		中間考査		考査問題に対する解答点数

11	第4編 製品の完成・販売と 決算	第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場 間の取引	<ul style="list-style-type: none"> 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法について学ぶ。 販売費及び一般管理費の記帳方法について学ぶ。 月次決算の意味と年次決算との関連について学ぶ。 財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成について学ぶ。 工場会計の独立と、その記帳方法について学ぶ。 	授業態度 副教材問題集の 問題解答 小テスト解答
	第5編 標準原価計算の基 礎	第14章 標準原価計算(そ の1) 第15章 標準原価計算(そ の2) 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算の意義と特色、全体的な流れについて学ぶ。 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法について学ぶ。 原価差異の計算とその分析方法について学ぶ。 標準原価計算の記帳方法について学ぶ。 標準原価計算による損益計算書の作成方法について学ぶ。 	指名による質問の 解答 提出物 考査問題に対する 解答点数
1	第6編 直接原価計算の基 礎	第16章 直接原価計算(そ の1) 第17章 直接原価計算(そ の2)	<ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算が利益計画に適した理由について学ぶ。 直接原価計算の意義と特色について学ぶ。 直接原価計算による損益計算書の組み立て方について学ぶ。 	授業態度 副教材問題集の 問題解答 小テスト解答
2	総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係について理解する。 高低点法を用いた原価予測の方法について学ぶ。 	指名による質問の 解答 提出物
3	総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> 正しく、きれいに記帳する習慣を身につけさせ、工業簿記全体の構造をしっかりと理解する。 特殊仕訳帳の記帳、材料元帳などの補助元帳の記帳、予定貸率による貸金勘定への記入、製造間接費の予定配賦など、個別原価計算のしくみについて、しっかりと理解する。 総合原価計算のしくみと仕訳・記帳について、しっかりと理解する。 	考査問題に対する 解答点数
		学年末考査		

4 評価の観点

関心・意欲・態度	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、原価計算から得られる情報を活用する態度を身につけている。
思考・判断・表現	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。
技能	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、原価計算から得られる情報を的確に処理することができる。
知識・理解	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造について理解している。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など)

原価計算は簿記同様、繰り返し問題を解くことで覚えていきます。そのため、電卓を忘れてしまうとほとんど授業に参加できません。必要なものを忘れずに授業に臨んでください。また、指示された提出物は必ず提出してください。
--

令和4年度 商業科「プログラミング」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	情報処理 科 2年C組
教科書	最新プログラミング (実教出版)	副教材等	30時間でマスター Excel2007 VBA(実教出版)

1 学習の到達目標

プログラミングに関する知識と技術を習得し、プログラムの役割や重要性について理解する。
ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。

2 重点目標

プログラミングの方法や、その仕組みについての知識を身につける。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第1章コンピュータとプログラミング	1. ビジネスと情報処理システム	ビジネスの諸活動と情報処理システムの関わりについて関心を持ち、データ処理の仕組みや役割の重要性を理解する。	発言内容 ワークシート 実習作品
5	第2章プログラミング基礎	1. プログラミングの手順	VBAの基礎について学習します。	発言内容 ワークシート 実習作品
		2. データの入出力と演算	マクロ記録による作成を学習します。	
6		3. アルゴリズムの表現方法	オブジェクト、プロパティ、メソッド、イベント、プロシージャ、変数の意味を理解する。	発言内容 ワークシート 実習作品
		中間考査		
7		4. 条件判定と繰り返し処理	VBAの基本構文を学習します。 代入と式、演算子の記述方法などを学習します。 セル、ワークシート、ブックの操作を学習します。	発言内容 ワークシート 実習作品
7		期末考査		
9	第2章プログラミング基礎	4. 条件判定と繰り返し処理	ユーザーフォームとコントロールの使い方を学習します。 条件分岐とループについて学習します。 情報処理検定にむけた学習をします	発言内容 ワークシート 実習作品
10	第3章プログラミング応用	1. メソッドの利用	VBA関数や配列を利用した集計処理などを学習します。	発言内容 ワークシート 実習作品
		2. 配列の利用	サブプロシージャの記述と呼び出しについて学習します。	
		中間考査		

11	第3章プログラミング応用	3. ファイルの入出力	ファイルを利用したデータ管理や応用的なプログラムの作成を学習します。	発言内容 ワークシート 実習作品
12		4. 応用プログラム作成	簡単なシステムを実際に作成します。	
期末考査				
1	第5章ハードウェア・ソフトウェア	1. ハードウェア	コンピュータの利用にあたって必要な、ハードウェアとソフトウェアに関する知識を学習します。	発言内容 ワークシート
2		2. ソフトウェア	周辺装置の機能や特徴について学習します。 中央処理装置やメモリなど、コンピュータ内部の構成について学習します。	
3		3. ネットワーク	ネットワークの基礎を学習します。	
学年末考査				

4 評価の観点

関心・意欲・態度	コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングについて関心をもち、ビジネスの諸活動によって生じた情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、プログラムを活用しデータを合理的に処理し、コンピュータを効果的に活用する実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動によって生じた情報を主体的に活用することを目指して、プログラムを利用してデータを加工するための思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
技能	プログラミングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動によって生じた情報の活用を目的としてコンピュータの活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知識・理解	コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、プログラムの意義や役割について理解している。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<p>実習を伴う授業のため、毎時間きちんと出席し、授業に取り組むことが大切です。また、実習作品やワークシートなどの提出物は、必ず期限内に提出するようにしてください。</p> <p>「情報処理」や「ビジネス情報」の授業と関連づけて、情報処理検定の学習ができます。積極的にチャレンジしましょう。</p>

令和4年度 商業科「課題研究」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年C組
教科書	なし	副教材等	班によっては必要な場合あり

1 学習の到達目標

商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。
問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 重点目標

目標設定した資格の取得とプレゼンテーション能力の向上を目指す。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	課題研究の主題の設定		1クラスを数班に分けて、担当教諭2～3人がそれぞれの指導に当たる。 4月当初に生徒の組み分けを行う。	課題研究日誌 グループごとに課された課題
5	年間計画の作成		商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図るよう、自発的に学習を進める。 年間の学習計画を作成する。	課題研究日誌 グループごとに課された課題
6	各グループによる課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課された課題
7	各グループによる課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課された課題 考査
9	各グループによる課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課された課題
10	各グループによる課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課された課題

11	各グループによる 課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課 された課題
12	各グループによる 課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課 された課題 考査
1	各グループによる 課題研究の実施		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。	課題研究日誌 グループごとに課 された課題
2	各グループによる 課題研究の実施 研究報告書の作成		各グループによる課題を行い、自発的に学習を進める。 研究報告書の作成	課題研究日誌 グループごとに課 された課題 研究報告書
3	研究報告書の作成		研究報告書の作成 発表	課題研究日誌 研究報告書 考査 発表状況

3 評価の観点

関心・意欲・態度	ビジネスに関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	ビジネスに関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。
技 能	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知 識 ・ 理 解	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、ビジネスの意義や役割を理解している。

4 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

この授業は、自ら課題を設定し、自分から進んで学習する科目です。そのため講義形式の授業ではありません。毎時間休まず出席し、課題解決に向けた学習への取り組み姿勢が非常に大切です。

令和4年度 商業科「情報処理」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	情報処理科 2年C組
教科書	最新情報処理（実教出版）	副教材等	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2級（実教出版）

1 学習の到達目標

ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割について理解する。
 ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。

2 重点目標

1. 全員がビジネス文書実務検定試験3級以上を取得する。
2. プレゼンテーションソフトを操作しながら、人前で堂々とプレゼンテーションができる態度を育てる。

3 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	4章 ビジネス文書の作成	1節 ビジネス文書と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ・タッチメソッドの習得に力を入れる。 ・毎時間の授業の開始にあたって、速度入力操作の実習を行う。 ・各自の学習進度に応じて、全国商業高等学校協会のワープロ検定1級～3級受験を一つの目標として設定する。 	授業態度 学習意欲・授業態度
5	4章 ビジネス文書の作成	1節 ビジネス文書と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・表を含むビジネス文書をし、ビジネス文書の構成や配置を学習する。 	実習状況・提出物 授業への取り組み状況・出席状況
6	4章 ビジネス文書の作成	2節 図形と画像の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・図形や画像情報の活用により情報の簡潔化、明瞭化、印象の強化などの効果が期待できることについて理解する。 ・タッチメソッドの習得に力を入れる。 	学習意欲・実習状況 実習状況・提出物
7		2節 図形と画像の活用 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の学習進度に応じて、全国商業高等学校協会のビジネス文書実務検定1級～3級を受験する。 	学習意欲・授業態度 検定試験への取り組み状況 考査得点・出席状況
9	4章 ビジネス文書の作成	3節 基本文書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解させるとともに、基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術を習得させる。 ・各自の学習進度に応じて、全国商業高等学校協会のビジネス文書実務検定1級～3級受験を一つの目標として設定する。 ・タッチメソッドの習得に力を入れる。他教科のレポート作成などにもワープロ操作の習得が効果的である。 	学習意欲・提出物 実習状況・提出物 授業への取り組み状況・出席状況
10				

11	4章 ビジネス文書の作成	4節 応用文書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得させる。 	実習状況・提出物
12		期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 各自の学習進度に応じて、全国商業高等学校協会のビジネス文書実務検定1級～3級を受験する。 	実習状況・提出物 検定試験への取り組み状況 考査得点・出席状況
1	5章 プレゼンテーション	1節 プレゼンテーションの技法	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション活動の目的や方法について理解する。 	学習意欲・実習状況
2		2節 ビジネスとプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、発表用の資料の整理や作成などの準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得する。 	学習意欲・実習状況 学習意欲・提出物
3		学年末考査		考査得点・出席状況

4 評価の観点

関心・意欲・態度	情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
技能	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知識・理解	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。

5 評価の方法

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

6 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

説明をしっかりと聞き、その後、自分で考えながら問題を解いていくようにして下さい。分からないところは、そのままにしないで質問をするようにして下さい。実習をしっかりとやることによって、理解が深まっていくと思います。
